一般社団法人

品質工学会

2022年度 定時社員総会

日時： 2022 年 6 月 24 日(金) 9:30~10:10

場所： 統計数理研究所(立川)、学会事務所(水道橋)
およびリモート環境

開会　会長挨拶
議事録署名人の選定

議事

[審議]
第 1 号議案　2021 年度事業報告
第 2 号議案　2021 年度決算報告
第 3 号議案　役員改選

[報告]
(1) 2022 年度　事業計画案
(2) 2022 年度　予算案

[紹介]
(1) 2022 年度　支援会員
(2) 2021 年度　貢献賞受賞者

閉会

※ 本資料および関連資料は
こちらからも参照できます。

品質工学会公式ホームページ
http://www.rqes.or.jp/

2022 年度　代議員名簿

(選挙区名簿順)

2022年度　代議員名簿

計 131名

2022年 6月 24日　　総務部会

選挙区	氏名	所属
北海道東北	三森　智之	アルプスアルパイン株式会社
〃	佐々木　市郎	アルプスアルパイン株式会社
〃	山野　竹秀	アルプスアルパイン株式会社
〃	白木　信	元 アルプスアルパイン株式会社
〃	滝田　祐一	日立Astemo株式会社
〃	坂川　義満	坂川品質相談所
〃	佐藤　幸太	光ガラス株式会社
〃	清水　友治	岩手大学
〃	手島　昌一	アングルトライ株式会社
〃	江末　良太	(株)IHI
〃	植　英規	福島工業高等専門学校
関東	鷲谷　武明	太陽誘電(株)
〃	大野　純一	自営
〃	舩戸　吉幸	(株)アルビオン
〃	金本　良重	金本品質技術研究所
〃	二ノ宮　進一	日本工業大学
〃	榊　卓也	日本光電工業(株)
〃	池嶋　昭一	理想科学工業(株)
〃	田村　寿人	キヤノンファインテックニスカ(株)
〃	秋元　美由紀	エスケー石鹸
〃	窪田　葉子	
〃	福島　祥夫	埼玉工業大学
〃	及川　昌志	埼玉工業大学(客員研究員)
〃	河田　直樹	埼玉工業大学
〃	斎藤　淳一	(株)ミツバ
〃	石井　克明	群馬県繊維工業試験場
〃	櫻井　文仁	群馬工業高等専門学校
〃	石井　尚正	群馬県立　高崎産業技術専門校
〃	鏑木　哲志	群馬県立東毛産業技術センター
〃	矢野　耕也	日本大学
東京	田口　伸	American Supplier Inst. Inc.
(海外含む)	土屋　元彦	
〃	杉山　一宏	公益財団法人 東京都中小企業振興公社
〃	日座　和典	日立アカデミー
〃	松坂　昌司	松坂ティーエムコンサルティング
〃	小川　豊	東芝エレベータ
〃	奥山　奥士	コニカミノルタ
〃	中島　尚登	東京慈恵会医科大学
〃	長谷部　光雄	のっぽ技研
〃	茂木　悠佑	(株)IHI
〃	小平　努	アルビオン
〃	見原　文雄	日本能率協会ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ(JMAC)
〃	小澤　修	日本規格協会
〃	玉木　淳	三菱ケミカル
〃	松下　誠	(株)リコー
〃	神蔵　一義	いすゞ自動車(株)
神奈川	宇田川　浩二	富士フイルムビジネスイノベーション(株)
〃	飯島　清高	富士フイルムビジネスイノベーション(株)
〃	安藤　力	富士フイルムビジネスイノベーション(株)
〃	茂木　徹	日産自動車株式会社
〃	西野　眞司	日産自動車株式会社
〃	松田　裕道	(株)リコー
〃	深澤　宏	(株)ウテナ
〃	青木　昭夫	帝京大学
〃	高橋　和仁	神奈川産業技術総合研究所
〃	松葉　旦祥	富士フイルム株式会社
〃	丸山　修司	花王(株)
〃	細井　光夫	(株)小松製作所
〃	熊谷　保昭	元(株)三菱ふそう
〃	曽我　光英	日本精工(株)
〃	坂本　慎太郎	CIG Photonics Japan (株)
〃	関口　定美	東芝デベロップメントエンジニアリング(株)
〃	稲垣　雄史	統計数理研究所
〃	佐藤　和彦	キヤノン(株)
〃	春名　一志	三菱電機(株)
〃	坂上　征司	(株)ミツトヨ
甲信越北陸	武澤　泰則	(株)松浦機械製作所
〃	青木　規泰	(株)松浦機械製作所
〃	林　憲一	(株)白山
〃	中西　貴志	EIZO(株)
〃	水谷　淳之介	富山高等専門学校
〃	早川　幸弘	富山高等専門学校
〃	浜田　真	北陸職業能力開発大学校
〃	伊勢　大成	福井工業高等専門学校
〃	山本　桂一郎	富山高等専門学校
〃	嘉指　伸一	嘉指技術品質研究所
〃	増田　雪也	(有)増田技術事務所
〃	高田　圭	セイコーエプソン(株)
〃	兒玉　光	日置電機(株)
〃	畠山　鎮	YKK株式会社
〃	中澤　和彦	アルプスアルパイン株式会社
〃	宮川　和博	山梨県産業技術センター
〃	木下　秀明	テルモ(株)
〃	熊坂　治	株式会社産業革新研究所
東海	北　英紀	名古屋大学
〃	藤本　亮輔	芝浦機械(株)
〃	田中　靖久	住友電装(株)
〃	中村　創一	三重県工業研究所
〃	澁谷　悠	ヤマハ発動機(株)
〃	森　輝雄	森技術士事務所
〃	越水　重臣	産業技術大学院大学
〃	針幸　達也	静岡工業技術研究所
〃	三浦　克朗	ブラザー工業(株)
〃	山口　直樹	(株)アイシン
〃	生駒　亮久	(元)KYB(株)
〃	吉野　節己	三宝化学工業(株)
〃	中条　孝則	(元)富士電機(株)
〃	大見　健児	(株)ダイセル
〃	秋山　正史	東芝テック画像情報システム(株)
〃	北村　玉男	(一社)中部品質管理協会
〃	野田　宗利	豊田合成(株)
関西	鐵見　太郎	三菱電機(株)
〃	太田　勝之	(株)シマノ
〃	中尾　誠仁	(株)ネオス
〃	側　友宏	パナソニック(株)
〃	近藤　功一	ヤンマー(株)
〃	芝野　広志	TM実践塾
〃	高濱　正幸	MHIパワーエンジニアリング(株)
〃	奥村　進	滋賀県立大学
〃	井上　徹夫	(株)シマノ
〃	渡辺　誠	(株)リコー
〃	越山　卓	(有)キューイーエム
〃	中上　裕一	パナソニック(株)
〃	吉田　晶	(株)ノーリツ
中国・四国	小野　正幸	DOWA IP クリエーション(株)
〃	山口　大造	津山工業高等専門学校
〃	山岡　誠司	広島市衛生研究所
〃	桑原　修	広島市工業技術センター
〃	武重　伸秀	マツダ(株)
〃	岩永　禎之	四国職業能力開発大学校
〃	西野　精一	阿南工業高等専門学校
〃	寶山　靖浩	リョービ(株)
〃	大塚　宏明	マツダ(株)
〃	上原　一剛	鳥取大学
九州	楯原　弘之	九州工業大学
〃	平井　智紀	佐賀県工業試験センター
〃	五島　伸洋	ＴＯＴＯ(株)
〃	成田　秀夫	(株)安川電機
〃	石田　雄二	西日本工業大学
〃	石田　秀一	国立研究開発法人　産業技術総合研究所
〃	藤本　武文	ローム・アポロ株式会社(筑後工場)

品質工学会の目指すところ，ビジョン 30，大切にすること

制定　2017 年 6 月 22 日　一般社団法人 品質工学会

品質工学会は、田口玄一博士の提唱する品質工学の開発・研究を行い、考え方・手法を提供してきました。25 周年を機会に一般社団法人として新たな活動を開始いたしました。ここに未来に向けて会員が目指すところ、ビジョン、そして大切にすることについてまとめました。

目指すところ

品質工学の開発・研究を通じて、あらゆる分野における総合的な評価体系を提供することで以下に貢献します。

1. プロセスの生産性の向上
2. 製品・サービスの創出
3. より豊かで自由な社会の実現

ビジョン 30

30 周年に向けて、常に全体最適を考え、いかなる場合も顧客視点での評価技術を継続的に提供し、以下を実現します。

“あらゆる分野に評価でイノベーションを”

1. 自己実現と社会認知
2. 新しい品質工学の考え、手法の開発
3. イノベーションへの貢献

大切にすること

私たちは、田口玄一の考え、考え方を良く理解し、以下のことを大切にして行動します。

1. 高い志で創意工夫し、目的志向で継続的に取り組みます
2. 機能性評価と最適化の考え・手法を開発します
3. オリジナルな研究を実例で行います
4. 正しさの追究でなく、経済的な優劣で議論します
5. 成果を広く社会に発信し、普及します
6. 専門技術の開発を支援します
7. 全体最適化の視点で研究します
8. 先行性.汎用性、再現性を確保し、技術開発の効率を追究します

会の運営の考え方

大切なことを基本に、目指すところ、ビジョンを達成するため次のことを定めて運営します。

1. 法令と社会規範を遵守し公正・健全な学会活動を行います
2. 互いの人権・個性・価値観など多様性を尊重します
3. 学会の持続的成長を目指し、自由闊達な学会活動の環境を提供します

[審議] 第 1 号議案

2021 年度　事業報告

目次

2021 年度　事業報告 (概要)....3
0.1. Vision30 実現のための主要活動....3
0.2. 役員、執行体制および会議等の開催....3
0.3. 会員状況....6
0.4. 運営統括部....8
0.5. 組織統括部....8
0.6. 技術統括部....9
2021 年度　事業報告 (詳細)....10
1. 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成....10
1.1. 田口の考え方の収集・整理....10
1.2. 研究会との連携強化....10
1.3. 品質工学の体系化....11
1.4. 品質工学新領域開拓....11
1.5. 品質工学手法研究....13
2. 品質工学の普及、およびその奨励、助成....14
2.1. 資格制度の運用....14
2.2. 品質工学教育特別講座の開催....14
2.3. 解析支援ツールの提供....14
2.4. 広報活動の強化....14
3. 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰....16
3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞 (2022 年度)....16
3.2. 品質工学会 ASI 賞 (2022 年度)....16
3.3. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 (2021 年度)....16
3.4. 研究発表大会 会長賞/....16

3.5. 実行委員長賞 (2021 年度)....17
3.6. 日本規格協会 理事長賞 (2022 年度)....17
3.7. 学生賞 (2022 年度)....18
3.8. 田口賞....18
3.9. 貢献賞 (2021 年度)....18
3.10. 表彰体系および基準の見直し....18
4. 学会誌その他の刊行物の発行....19
4.1. 学会誌「品質工学」の発行....19
4.2. 同誌掲載論文のレビュー....20
4.3. 同誌の編集と投稿数の増加施策....20
5. 研究発表大会、研究集会等の開催....21
5.1. 品質工学研究発表大会....21
5.2. ICRQE2021....21
5.3. 品質工学技術戦略発表大会....22
5.4. 企業交流会....22
5.5. 次世代経営研究会....22
5.6. 学校交流会....23
6. 品質工学情報の収集、提供....25
6.1. 論文電子公開(J-Stage)....25
6.2. 事例データベースの作成....25
6.3. 品質工学用語集の作成....25
7. 内外の関係団体との連絡および提携....25
7.1. 日本規格協会....25
7.2. 日本品質管理学会....25
7.3. 産業技術総合研究所....25
7.4. 農林水産省....25
7.5. JAXA/宇宙航空研究開発機構....26
8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業....26
8.1. 会議体運営....26
8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)....26
8.3. 代議員選挙の運営....26
8.4. 新型コロナィルス感染対応....26
8.5. 規程整備....26

2021 年度 事業報告（概要）

0.1. Vision30 実現のための主要活動

ビジョン 30 のねらいである「あらゆる分野に評価でイノベーション」を設定し、三つの分野に展開して活動してまいります。

1.自己実現と社会認知

2.新しい品質工学の考え，手法の開発

3.イノベーションへの貢献

2020 年度の活動をさらに活性化すると同時に、あたらたな自己実現と社会認知についての可能性を追求してきました。21 年度はビジョン 30 活動 5 ヵ年計画が策定されてからの最終年度となります。そこで 5 年会の活動の総括をいたしました。総括からいえることは，後半になるにしたがって各活動が活発になり成果がでてきております。

また，学会としての価値の成果尺度などが見えてくるなどの成果が得られてきました。5 年まえに設定した田口博士の後の研究をどのように引き継ぐのか，また矢野宏が作ったエコシステムをどのように拡大していくのか，さらに学会の財務体質の強化の課題については，残念ながらそのまま残っております。V30 の総括結果を反映し，新たな長期計画の策定を行い活動の活発化へつなげていく予定です。

今年度をもって V30 の活動は終了いたします。

ビジョン 30 にむけての長期計画に対する活動状況は，別冊，品質工学会「ビジョン 30 にむけて活動報告」を参照ください。20 年度の個別の活動については，各事業部会の活動を参照ください。

横断プロジェクトとして，田口の考え方の構造化委員会，通称 TQP 委員会活動については，今年度は執筆活動行ってきました。現在 20 編の品質工学がありますが，そのうち，技術開発のための品質工学，機能のばらつき測度を求めるための SN 比，保全・クレームに対する品質工学，品質工学に対する数理と 20 編を総括する品質工学概論のコンテキストの企画活動を行いました。また，それらの背景となる田口玄一の考え方の源になっている考え方の調査分析をおこなってきました。それらの研究成果について，22 年度の品質工学研究発表大会で発表する予定をしています。

0.2. 役員、執行体制および会議等の開催

◆2020～21 年度役員

2021 年度は、2020 年度に引き続き同様の体制(任期 2 年)で運営してきました。

(敬称略)

代表理事　椿 広計

理事　上杉 一夫、衛藤 洋仁、太田 勝之、大村 欽也、救仁郷 誠、芝野 広志、須江 雅彦、田口 伸、武重 伸秀、田村 希志臣、近岡 淳、千葉 亨、永田 靖、楢原 弘之、浜田 和孝、藤本 隆宏、細川 哲夫、水谷 淳之介、宮川 雅巳、

矢野 耕也、山戸田 武史、山本 桂一郎、吉川 勝也、吉澤 正孝、吉原 均
・・・ (25 名)

副理事 安藤 力、安藤 欣隆、糸久 正人、大越 問、大塚 宏明、河田 直樹、熊谷 保昭、熊坂 治、近藤 芳昭、坂本 雅基、佐々木 康夫、沢田 龍作、塩沢 潤一、高辻 英之、高松 喜久雄、武澤 泰則、畠山 鎮、満嶋 弘二、吉野 荘平 ・・・ (19 名)

監事 折戸 文夫、久米原 宏之 ・・・ (2 名)

※ 監事であられました久米原先生が 2021 年 11 月 1 日にご逝去されました。ご冥福をお祈りし、謹んで哀悼の意を表します。

◆執行体制

執行のための組織(部会/委員会)と担当理事を明記した体制を示します。前年度と同様の「事業・組織・技術の 3 統括部体制であります。

2021年度 一般社団法人 品質工学会 執行役員体制

*: 兼務 ★: 新任

名誉会員の会 (谷本)						
選挙管理委員会 (谷本)						
監事 (折戸)						
監事 (久米原)	**理事** (田口/ASI)					
	理事 (吉川/日本規格協会)					
	理事 (藤本/早稲田大学)					
	理事 (宮川/東京工業大学)					
	理事 (永田/早稲田大学)					
	理事 (須江/滋賀大学)					
			部会長・委員長・幹事		**副部会長・副委員長・副幹事**	
代表理事 会長 (椿)	**Vision30統括長** (吉澤)		**Vision30 プロジェクト**	(吉澤*)	( )	
	副会長・運営統括長 (近岡)	**副統括長** (田村)	**事業部会**	(細川)	(安藤(欣)、近藤、塩沢、熊谷)	
			審査表彰部会	(田村*)	(安藤(力)、糸久)	
		副統括長 (矢野)	**出版部会**	(矢野*)	(坂本)	
			広報部会	(山本)	(吉野、田村*、熊坂)	
	副会長・組織統括長 (武重)	**副統括長** (水谷)	**研究会連携委員会**	(上杉)	(高辻)	
			学校教育委員会	(楢原)	(河田 、山本*)	
			企業普及委員会	(吉原)	(満嶋 、大塚)	
	副会長・技術統括長 (浜田)	**副統括長** (衛藤)	**発表大会実行委員会**	(山戸田)	(高松)	
			戦略大会実行委員会	(大村)	(大越)	
		副統括長 (芝野)	**技術向上委員会**	(太田)	(沢田、細川*、武澤、畠山)	
	総務統括長 (救仁郷)		**総務部会**	(千葉)	(佐々木)	

◆会議等

1) **定時社員総会**: 2021 年 6 月 25 日(金) 9:30～10:10、学会事務所(水道橋)よりリモート環境で開催しました。

[審議事項] 第 1 号議案 2020 年度事業報告、第 2 号議案 2020 年度決算報告、

[報告事項] (1) 2021 年度事業計画、(2) 2021 年度予算案
[紹介事項] (1) 2021 年度支援会員、(2) 2020 年度品質工学会貢献賞受賞者

2) **理事会**: 定款第 31～36 条に規定される「この法人の業務執行の決定機関」として、定例(6、 9、12、 3 月) の計 4 回開催しました。

3) **部会長会議**: 学会運営の執行に関わる検討・論議、情報共有、調整および進捗管理のための会議体で、1 回/月(原則第 2 水曜)、第 178 回(2021/4/14)から第 189 回(2020/3/9)までの 12 回開催しました。

◆主要な活動

一般社団法人 品質工学会 2021年度 主要活動 .

		事業		学会運営	
		主要イベント	出版	会議体	
				部会長会議	理事会
2021年度	4		学会誌 ・Vol.29, No.2	・定例(4/14)	
	5	▼次世代経営研究会(5/18)		・定例(5/12)	
	6	▼研究発表大会(6/24,25) ▼定時社員総会(6/25)		・定例(6/6)	・定例(6/6) ・臨時(6/25)
	7		・Vol.29, No.3	・定例(7/14)	
	8	▼次世代経営研究会(8/20)		・定例(8/11)	
	9	▼学校交流会 (9/3) ▼ICRQE (9/10～17)		・定例(9/8)	・定例(9/8)
	10		・Vol.29, No.4	・定例(10/13)	
	11	▼次世代経営研究会(11/15) ▼技術戦略研究発表大会(11/26)		・定例(11/10)	
	12			・定例(12/8)	・定例(12/8)
	1	▼企業交流会(1/21) ▼次世代経営研究会(2/15)	・Vol.30, No.1	・定例(1/12)	
	2			・定例(2/9)	
	3	▼学校交流会 (3/4)		・定例(3/9)	・定例(3/9)
2022年度	4		・Vol.30, No.2	・定例(4/13)	
	5	▼次世代経営研究会(5/17)		・定例(5/11)	
	6	・研究発表大会(6/23,24) ・定時社員総会(6/24)		・定例(6/8)	・定例(6/8) ・臨時(6/24)

0.3. 会員状況

1) 個人会員(正会員･学生会員･名誉会員)

2022 年 3 月 31 日時点で会員状況は次の通りです。

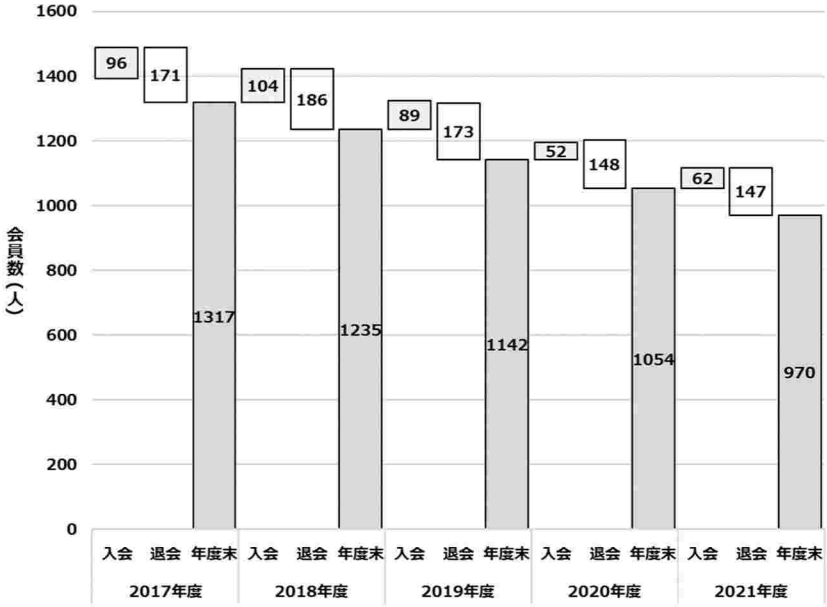
表 2021 年度末 個人会員数

名誉会員	10 名
正会員	939 名
正会員 (海外)	16 名
学生会員	4 名
学生会員 (海外)	1 名
計	970 名

個人会員数は 2022 年 3 月末時点で 970 名となりました。

会員数はリーマンショックの際(2007 年)に減少に転じて以来その傾向が続いています。ただ、2020 年度からはコロナ感染拡大による諸活動の自粛停滞、発表大会の中止や発表数減少の影響もあり、新規の入会者が従来の半数程度になっているものの、退会者も減ったことで、全体としての減少傾向はやや鈍化してきました。

図および表 2017～21 年度 個人会員数推移



	年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
増	入会	96	104	89	52	62
	復会	0	0	0	0	0
	計	**96**	**104**	**89**	**52**	**62**
減	休会	1	1	0	2	0
	退会 (逝去)	2	1	3	1	8
	退会 (退会届)	151	165	155	130	125
	退会 (資格喪失)	17	19	15	15	14
	計	**171**	**186**	**173**	**148**	**147**
年度末	対前年	-75	-82	-84	-96	-84
	在会	**1317**	**1235**	**1142**	**1054**	**970**

会員数、即ち皆さんに納めていただく会費は、発表大会を始めとするイベントの参加費収入が減少している現状では、学会総収入の約 50%を占めております。健全で有益な学会活動を実施し続けるために、会員数の減少を抑えることは引き続き学会運営上の大きな課題であります。

役員および代議員の皆様には、品質工学会の魅力を発信し会員数を維持増加させるためにご協力いただけるようお願い致します。

2) 名誉会員

2022.3.31 現在の名誉会員は以下の皆様です。(敬称略、五十音順)

伊藤 源嗣	稲生 武	紙本 治男	鴨下 隆志	草間 三郎
小池 昌義	土屋 元彦	谷本 勲	原 和彦	矢野 宏

※ 名誉会員であられました中島建夫様は 2021 年 12 月 6 日にご逝去されました。ご冥福をお祈りし、謹んで哀悼の意を表します。

3) 賛助会員

2021 年度の賛助会員は次の通りです。年度初めに 1 団体が入会され、計 25 団体(28 口)の皆様から学会活動への支援をいただきました。

表 2021 年度 賛助会員

	会員番号	名 称	口数	備考
1	90002	古河電気工業(株)	1	
2	90007	富士フイルム(株)	1	
3	90008	富士フイルムビジネスイノベーション(株)	2	
4	90010	(株)不二越	1	
5	90013	マツダ(株)	1	
6	90015	(株)ツムラ	1	
7	90016	いすゞ自動車(株)	1	
8	90025	三菱重工業(株)	1	
9	90037	コニカミノルタ(株)	1	
10	90043	(株)小松製作所	1	
11	90053	(株)ＩＨＩ	2	
12	90059	(一財)日本規格協会	2	
13	90065	富士フイルムマニュファクチュアリング(株)	1	
14	90066	デンソーテクノ(株)	1	
15	90067	(株)松浦機械製作所	1	
16	90070	ＹＫＫ(株)	1	
17	90071	(株)ノトアロイ	1	
18	90072	アイコクアルファ(株)	1	
19	90073	アルプスアルパイン(株)	1	
20	90074	トヨタ自動車(株)	1	※ 2022/3/31付退会
21	90077	本田技研工業(株)	1	
22	90079	ＫＹＢ(株)	1	
23	90080	(国研)宇宙航空研究開発機構	1	
24	90081	(一社)日本品質管理学会	1	
25	90083	(株)ダイセル	1	※ 2021/4/1付入会
	計	25団体	28	

0.4. 運営統括部

- ✧ 2021 年度は各部会の日常の運営活動を維持しながら、下記の項目に関して活動開始あるいは活動強化を行いました。 2022 年 1 月 21 日に第 32 回**企業交流会**は品質工学の周辺課題にも着目した今までと違うスタイルのプログラムを企画し開催いたしました．その結果、65 名の参加者を得て，参加者に技術開発も含めた技術経営に関して多くの有益な気づきを与えることができました。
- ✧ 2020 年 11 月より発足した**次世代経営研究会**は、基調講演とパネル討論で構成された定例会を継続して 3 か月毎に開催しました。開催月は 2021 年 5 月、8 月、11 月、2022 年 2 月です。また、定例会と併行して経営課題とその対応を議論していく WG を設置することにし、2022 年 5 月以降から開始できるように準備を進めました。
- ✧ 日本品質管理学会との共同研究会である**商品開発プロセス研究会**は、3 つの WG での研究会を中心に活発に活動いたしました。マイルストーンとして 2021 年 6 月に品質工学研究発表大会に、また 2021 年 11 月に日本品質管理学会年次大会発表会に企画セッションとして発表を行いました。
- ✧ **広報部会**は各部会と連携して内容構成の整理と拡充を行い、ホームページへの掲載フローを提示し，各部会からの掲載依頼に対して迅速に対応できるようにしました。また、イベント会告の表示方法および様々な情報通知の見直し、品質工学の解説改訂など、会員へは見易さ向上、非会員には学会に興味を持てるような有益な情報提供など意識して充実させることにより、ホームページのページビュー数，訪問者数が倍増いたしました。
- ✧ **学会誌**「品質工学」の Vol.29(2021)は論説・解説で 13 報、原著として 9 報の掲載を行いました。ページ総数は 418 ページで隔月刊時代の 466 ページと比べて若干の減少となりました。学会誌への投稿について、会員に取ってわかり易くすることを意識して、投稿規程および査読規程の見直しを図りました。投稿規程の改訂は 2021 年 6 月 9 日に、英文投稿規程の不足部分についての再改定を 2022 年 3 月 9 日に行いました。査読プロセスについては査読用紙の整備を含めて検討中です。
- ✧ 学会誌の内容については、会員同士の議論あるいは情報交換としての役割を強化するために、自由記述欄である「**QE スクエア**」の活用を積極的に行いました。また、会員の約半数が田口玄一を知らない世代になり、品質工学の再発掘、歴史化等を深めることを継続して進めています。
- ✧ **定例表彰**に関しては従来通りのプロセスを経て、論文賞金賞 1 件、銀賞 2 件、ASI 賞 1 件、学生賞 1 件、日本規格協会理事長賞 1 件が選定されました。
- ✧ **表彰体系**の整理、大会発表賞の表彰審査基準の見直しについて部会内で整理検討を開始しました。2022 年度も検討継続します。

0.5. 組織統括部

2021 年度事業の中核活動を**「企業向けテキスト」作成**に置き、組織統括内で連携して進めて参りました。その結果、一旦 PPT 形式で完成させ、来期早々に HP で公開を予定しております。その過程で**研究会連携委員会**が中心となり、テキストの一部の SN 比について、内容をレベルアップさせるなど、研究会の連携を強化して参りました。

また学校教育も品質工学を通して学生を育てる教育を実施し論文投稿する、**学校交流会**の参加者を増やすなど、活動を広げることができました。

0.6. 技術統括部

今年度も、コロナ禍の中、全てリモートによる運営でしたが、大会企画・運営と技術向上についてほぼ当初計画通りの活動を行うことができました。

1．大会企画・運営

- ✧ **第 29 回品質工学研究発表大会**（RQES2021S）を統数研の施設を運営会場として全面オンライン開催しました。
- ✧ **第 14 回品質工学技術戦略大会（**RQES2021S）を、品質工学会事務所を運営会場として全面オンライン開催しました。
- ✧ **・ICRQE2021** を、品質工学会事務所を運営会場として全面オンライン開催しました。

2．技術向上活動

技術向上委員会での活動を中心に各テーマの研究を進めました。

- ✧ 「**体系化**」は、1993 年~2021 年発表事例のデータベース化を進め、一般公開用は完成させました。会員公開用は継続作成中です。
- ✧ 「**新領域適用**」については、商品開発プロセス研究会の WG 活動に参加しその成果を、品質工学研究発表大会および日本品質管理学会年次大会で発表しました。
- ✧ 「**手法研究**」については、バーチャル設計の可能性と課題について議論を行い、その成果まとめて学会誌に解説として投稿しました。
- ✧ 「**品質工学用語**」については、用語集として学会ホームページ上で公開しました。

2021 年度 事業報告（詳細）

1. 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

1.1. 田口の考え方の収集・整理

田口博士の後の研究をどのように引き継ぐのか，また矢野宏が作ったエコシステムをどのように拡大していくのか，さらに学会の財務体質の強化の課題については，残念ながらそのまま残っております。

横断プロジェクトとして，田口の考え方の構造化委員会，通称 TQP 委員会活動については，今年度は執筆活動行ってきました。現在 20 編の品質工学がありますが，そのうち，技術開発のための品質工学，機能のばらつき測度を求めるための SN 比，保全・クレームに対する品質工学，品質工学に対する数理と 20 編を総括する品質工学概論のコンテキストの企画活動を行いました。また，それらの背景となる田口玄一の考え方の源になっている考え方の調査分析をおこなってきました。それらの研究成果について，22 年度の品質工学研究発表大会で発表する予定をしています。

1.2. 研究会との連携強化

0）活動全体

2021 度は"横通しのコミュニケーションによる地方連携の土台づくり"をテーマに進めてきました。その結果「企業向けテキスト作成などの学会活動にご協力を頂いた」、「RQES2021S で学会活動に関して活発な意見交換がなされた」、「研究会の Web 開催が広まり、所属外の研究会への参加が始まった」など、学会と地方研究会のコミュニケーションが活発化してきております。他の研究会に参加するなど、地方研究会通しのコミュニケーションも一部活発化し始めました。

1) RQES2021S を活用したコミュニケーション強化

地方研究会の横通しのコミュニケーションの促進のために以下を実施致しました。

①RQES2021S における研究会オーガナイズドセッションの開催

5 研究会がそれぞれ独自のセッションを開催し、全部で 25 件のテーマ発表が行われ活発な議論がなされました。

②RQES2021S における全国研究会活動展の開催

15 研究会が参加し、その活動内容を紹介しました。

③RQES2021S における研究会懇談会の実施

13 研究会が参加し、研究会連携活動に対するいくつかの意見を頂きました。但し時間が短く、十分議論ができなかったことが課題として残りました。

2) 学会活動の連携実施

①企業向けテキスト作成

企業普及委員会で企業向けテキストを作成しており、15 研究会の協力を頂き、内容を充実させることができました。

②商品開発プロセス委員会 WG2 活動報告

商品開発プロセス委員会 WG2 活動で技術開発プロセスを検討し、T7としてまとめ内容について、研究会より様々なご意見を頂くことができました。

3）学会誌への研究会活動報告掲載の推進

継続して実施しました。

1.3. 品質工学の体系化

「体系化」については、品質工学研究発表大会で発表された事例のデータベース化に前年より継続して取り組んでいます。 →「**6.2 事例データベースの作成**」参照

1.4. 品質工学新領域開拓

技術向上委員会独自での活動はなく、事業部会新規事業委員会の「商品開発プロセス研究会」での WG 活動に委員として継続参加しました。

新商品開発プロセス研究会

一般社団法人日本品質管理学会と共同の研究会「商品開発プロセス研究会」は両学会の理事会の承認を経て 2018 年 11 月に正式に発足し、活動を活発に継続いています。開始時のメンバーは 22 名ですが、現在は 31 名になっています。主査として日本品質管理学会からは統計数理研究所・所長の椿広計氏、品質工学会からは(有)近岡技術経営研究所の近岡淳氏、幹事は電気通信大学准教授山本渉氏、(株)リコー細川哲夫氏が担っています。2019 年度からは研究のさらなる促進のために以下の三つのＷＧを設置し、研究の主体は各 WG に移し、全体委員会では各 WG からのアウトプットの整理と外部有識者との交流を進めています。現在ＷＧ毎の研究会をほぼ毎月開催しており、全体会合は半年毎の開催としています。マイルストーンとして日本品質管理学会の研究発表会（11 月）、品質工学会の研究発表大会（6 月）に中間の研究報告を行っています。本年度は 2021 年 6 月 24 日（木）に品質工学研究発表大会にて、2021 年 11 月 13 日（土）に日本品質管理学会年次大会研究発表会にて企画セッションとして発表を行いました。

＊ **ＷＧ１：顧客価値創造の上流工程プロセスの開発**（幹事：旭化成(株)原田洋一郎氏）
＊ **ＷＧ２：創造性と効率性を両立した技術開発プロセスの研究**（幹事：(株)リコー細川哲夫氏）
＊ **ＷＧ３：損失関数の新事業プロセス評価への適用研究**（幹事：慶應義塾大学教授山田秀氏）

・ＷＧ１「顧客価値創造の上流工程プロセスの開発」

WG1 は競争力向上につながる魅力的品質を実装していくための商品企画の上流工程（開発目標を設定するまで）について、プロセス、手法などを SDL(Service Dominant Logic)4) を踏まえて研究しています。2020 年 12 月以降は JSQC とサービス学会の共同研究会である「サービスの Q 計画研究会」で標準化研究 5)を進めた SDL に基づき、技術は一つのツールとして、顧客をパートナーとして価値創造に資する新規事業開発の上流工程の定義を中心に検討しました。具体的には ISO/560026), ISO TC312

Excellence in service で，水流聡子 JSQC サービスエクセレンス部会長が起草している ISO TS240827)，ISO 16355 シリーズ 3)等のプロセス標準の検討、企業事例（リコー、コマツなど）の調査，魅力的品質（狩野紀昭東京理科大学名誉教授）、新商品開発七つ道具（神田範明成城学園大学名誉教授）、サービスドミナントロジック（戸谷圭子明治大学教授）等の基盤となる考え方について識者から講義いただき議論を進め、必要な視点の構造化などを進めています。今後は商品開発最上流プロセスとしての新規事業を企画する際のプロセスや落とし穴など、社会的課題抽出の視点を基に進めていきます。特に“顧客（パートナー）との共創”をどのように実現していくか、その要素は？ を今後の活動のフォーカスとして進めていきます。

・WG2 「創造性と効率性を両立した技術開発プロセスの構築」

2018 からスタートした WG2 研究活動の成果として，技術開発プロセスを設計するプラットフォーム”T7”を構築し，活用段階に入ることができました．現在は２つのテーマで活動を継続しております．

１．T7 の活用推進

・学会誌への投稿． ４月号に掲載予定

・各地方研究会への紹介（継続中）

・TRIZ 協会への紹介（実施完了）

このような活動を継続しておりますが，以下の２点が壁となり実践活用までには至ってないのが現状です．

１）技法が複数あり，すべてを理解し実施することができない

２）技術開発プロセスの変更は担当者の判断ではできない

２．方針管理による技術開発プロセスのマネジメントに関する研究

品質工学や T7 の実施を目的化することによる過去の推進失敗を繰り返さないために，品質工学や T7 を経営課題の解決手段に位置付けることを目指して，方針管理の考え方を取り入れた技術開発プロセスのマネジメント方法に関する研究をスタートさせました．管理項目に関するアンケートに回答いただいた 5 名とアドバイザーとして福原先生に参加していただき Sub-WG2 を立ち上げて，活動を継続しております． こちらも来期の継続テーマとなります．

WG３ 「損失関数の新事業プロセス評価への適用研究」

WG3 は新事業開発プロセスにおける事業評価指標として、品質工学の損失関数を拡張し、損失関数に基づく評価方法の理論及び事例も併せて収集し、事業評価基準モデルと適用を研究しています。現在の議論の方向性は以下になります。

① 廣野委員が提示した事業開発プロセスを元に一般化した事業開発プロセスを記述します。この中で，意思決定マイルストーンの設定やその間隔最適化の研究等も検討しています。

② 事業評価と意思決定に損失関数を適用している Real Option 理論を参考に、事業評価を経て意思決定すべき対象を整理し、新規市場への参入，モデルチェンジ，研究開発プロジェクトの継続あるいは中止、技術投入の保険、源流（技術開発）/上流（製品設計）でのロバスト性も加味した意思決定評価方法とその支援ツールを検討中です。

特に，事業プロセス評価指標に基づく課題の再整理と意思決定を経た後の調整実施のタイムラグの損失評価，商品開発プロセスそのものをオンライン品質工学的に扱って評価すること有効性などが議論されまし

た。加えて損失関数を使った新規機能価値の分析手順の事例研究、 製品開発プロセスのマルコフ決定過程に基づいた評価方法の研究などを行っています。

トップマネジメントに，開発プロセスの不確かさ（実現可能性）評価やロバスト化という開発初期の固定費の投資で将来の変動費（設計手戻り，不具合対策）をカバーすることが可能となることやロバスト技術開発及びロバスト設計の有効性を納得させるための事例研究開発が課題です。

1.5. 品質工学手法研究

・「手法研究」については、過去の発表論文からテーマを選定し、技術委員会メンバーを中心に検討、議論を行い、検討結果を学会誌に掲載して、会員との意見交換を行うという方針で活動を進めることにしています。第 1 段として、「バーチャル設計の可能性と課題」について議論を行い、その成果まとめて学会誌に解説として投稿しました。Vol30.No2（4 月）に掲載予定です。

・また編集委員会で企画している、解説「シミュレーションによるロバスト設計（1）ーノイズ因子の与え方－」（Vol29,No.4）についても、専門家としての立場から参画し議論を展開しました。

2. 品質工学の普及、およびその奨励、助成

2.1. 資格制度の運用

・委員長と委員の委嘱(8/5) 委員会委員が任期満了となり、本年度の委員長と委員を委嘱しました。
・品質工学エンジニア申請者の募集（～10/8） 申請者の応募は学会ホームページ、学会誌の会告で行い、さらに会員一斉メールを発信し知徹底を図りました。
・申請者の審査(12/1) 品質工学エンジニア認定規程の認定基準に則り、委員が事前審査し、最 終の認定審査はその結果を基に委員全員が集まり、リモートにより実施し ました。認定審査の課題も整理しました。
・審査結果の理事会への報告（12/8） 認定審査結果を理事会に報告し、審査結果が承認されました。
・審査結果の連絡（1/11） 理事会での承認内容を申請者へ通知しました。

2.2. 品質工学教育特別講座の開催

2021 年度の講座は、2021 年 8 月に「品質工学特別講座-田口論説に学ぶパラメータ設計」、2022 年 3 月に「解析ツール講座-MT 法コース」を開催しました。その実施報告をパラメータ設計コースは学会誌 2022 年 1 月号に掲載しました。MT 法コースは 2022 年 7 月号に掲載する予定です。また 2021 年 2 月に開催した「品質工学特別講座-田口論説に学ぶ MT システム」の実施報告は 2021 年 7 月号に掲載しました。

講座については、新型コロナのためすべて Web 開催としました。Web 形式は場所を限定しないメリットもあり、2022 年度はその形式を継続する予定です。Web 講座の新規企画は、来年度に繰り延べます。

2.3. 解析支援ツールの提供

・MT 法解析支援ツールを使用した入門者向けの講座を新規に企画しました。
・3 月 11 日に「MT システムの基本と MT 法ツール講座」として、オンラインで実施しました。
・パラメータ設計解析支援ツール及び MT 法解析支援ツールの継続的なフォローを実施いたしまました。
・会員企業向けに 1 契約口数に対して 3 ライセンスが提供できるように解析支援ツールのダウンロードシステムの更新を行いました。

2.4. 広報活動の強化

・引き続きコロナウイルス感染症の影響を受け，学会イベントの数多くがオンラインで実施された。ホームページからの情報発信が中心となるため，できる限り学会ホームページの充実には力を入れました。
・情報発信領域についての課題整理を行いました。品質工学の基礎知識の内容について刷新しました。
・第 29 回研究発表大会がオンラインで開催されたため，カタログ展示などの現地での広報活動を行うことができませんでしたが，対面での学会開催を見据えたカタログ展示の運営方法について検討しました。
・学会誌への広告掲載数の維持を図れるようにいたしました。

・第 29 回品質工学研究発表大会の前後に 2 回，日刊工業新聞紙面で開催告知と結果報告を掲載しました。また，学会ホームページに大会の情報を掲載し周知と参加者拡大を促しました。
・第１４回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を実施，参加者の確保に務めました。
・ホームページを通して提供する会員サービスの拡充を図るべく，総務部会，事業部会と連携して内容構成の整理と拡充を行いました。
・ホームページへの掲載フローを提示し，各部会からの掲載依頼に対して迅速に対応できるようにしました。
・情報発信の正確性と迅速性を高めるために，ホームページ編集ソフトのライセンス数を増加させました。
・ホームページのページビュー数，訪問者数が倍増いたしました。

3. 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞 (2022 年度)

・24 名の表彰審査委員による論文賞表彰審査会を 2 月 26 日に開催し、論文賞金賞 1 件、銀賞 2 件を選定しました。

金賞： プロセス機能展開表を活用した光学ガラスの溶解技術開発 Vol.29 No.1

佐藤幸太＊1、嘉指伸一＊2

（*1 光ガラス(株) 正会員、*2 嘉指技術品質研究所 正会員）

銀賞： 差圧特性の機能性評価による医療用正流・逆流バルブの技術開発 Vol.29 No.4

木下秀明＊1、山元翔太＊2、小林正彦＊2、嘉指伸一＊3

（*1 テルモ(株) 正会員、*2 テルモ(株)、*3 嘉指技術品質研究所 正会員）

銀賞： 機能性評価を導入した一般購入部品購買改善に向けての活動 Vol.29 No.2

畠山 鎮＊1、中村高士＊1、麹谷幸久＊1、岩脇正芳＊1、岩下啓輔＊2、酒井克希＊2、松村悟志＊2、松島英征＊1 （*1 YKK(株) 正会員、*2 YKK(株)）

3.2. 品質工学会 ASI 賞 (2022 年度)

・ASI の協力を仰ぎ、ASI 賞 1 件を選定しました。

プロセス機能展開表を活用した光学ガラスの溶解技術開発 Vol.29 No.1

佐藤幸太＊1、嘉指伸一＊2

（*1 光ガラス(株) 正会員、*2 嘉指技術品質研究所 正会員）

3.3. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 (2021 年度)

金賞 **燃焼～溶融の CAE による機能性評価と感度調整による試作レス開発プロセスの確立**（発表 No.5）

受賞者 小西洋平*，武村直輝*，齊藤卓一*（* (株)ニコン 正会員）

銀賞 **パラメータ設計による SKYACTIV-G FEAD システムの開発**（発表 No.13）

受賞者 山内智博*，須藤康博*，小泉昌弘*（* マツダ(株) 正会員）

銀賞 **パネル外観検査手法の構築**（発表 No.12）

受賞者 影山貴大*1，徳留宏俊*1，久保祐貴*2，大塚宏明*1，武重伸秀*1，福本康博*1（*1 マツダ(株) 正会員，*2 マツダ(株)）

銀賞 **動的単位空間を適用した MT 法による，産業設備の異常診断**（発表 No.4）

受賞者 茂木悠佑（(株)IHI 正会員）

3.4. 研究発表大会 会長賞/

題 目 感性工学に対する品質工学的視点による評価信頼性と効率化の検証（発表 No.50）

受賞者 松永薫樹*，野坂武志*，畠山 鎮*（* YKK(株) 正会員）

3.5. 実行委員長賞（2021 年度）

今大会で 13 件の研究発表を行ったマツダ(株)（代表：武重伸秀）に授与されました。

題目 **・生体情報活用による金型仕上げ技能の品質安定化手法の構築（No.3）**
・広島県における品質工学の取り組み概要（No.9）
・広島での品質工学の進化 （No.10）
・磨き切削量の制御技術最適化（No.11）
・パネル外観検査手法の構築（No.12）
・パラメータ設計による SKYACTIV-G FEAD システムの開発 （No.13）
・内燃機関燃焼室の機能性向上によるオイル消費抑制（No.14）
・パラメータ設計による SKYACTIV-G ピストンの開発 （No.15）
・パネルディスカッション ～広島県での今後の品質工学の展開（No.16）
・バリ撲滅に向けたバンパー金型 PL 面高耐久化技術構築 （No.17）
・プレス金型の高周波焼入れにおける作業条件の最適化（No.20）
・機能性評価を用いた理想せん断構造の追究（No.48）
・機械加工工数の高精度見積手法の構築（No.68）

受賞者 （No.3）佐伯千春*1，有松直弥*1，影山貴大*1，久保祐貴*2，須賀 実*2
（No.9）大塚宏明*1，高辻英之*3，寶山靖浩*4 武重伸秀*1，深堀 貢*1，吉村孝史*1
（No.10）吉村孝史*1，武重伸秀*1，大塚宏明*1 深堀 貢*1，高辻英之*3，寶山靖浩*4
（No.11）徳留宏俊*1，東 誠大*2，佐伯千春*1，武重伸秀*1，大塚宏明*1，福本康博*1，安楽健次*2，長澄徹侍*2，山下伸幸*2，姫野良尚*2
（No.12）影山貴大*1，徳留宏俊*1，久保祐貴*2，大塚宏明*1，武重伸秀*1，福本康博*1
（No.13）山内智博*1，須藤康博*1，小泉昌弘*1
（No.14）武重伸秀*1，宮内勇馬*2，西川 潤*2
（No.15）須藤康博*1，山内智博*1，小泉昌弘*1
（No.16）武重伸秀*1，大塚宏明*1
（No.17）鈴木健太*1，安楽健次*2，中山光一*2，澤本 健*2，松本昂大*2，肝付成哉*2，長迫広大*2，福園優太*2，宮川英里也*2
（No.20）有松直弥*1，佐伯千春*1，影山貴大*1，久保祐貴*2
（No.48）畑平拓也*1，岡山一洋*2，新矢 斉*2，江草秀幸*2，横山郁夫*2，福本康博*1
（No.68）奥本悠季*1，横山郁夫*2，大田敦史*2，叶井 貫*2，江草秀幸*2，上村勝利*2
（*1 マツダ(株) 正会員，*2 マツダ(株) *3 広島県農林水産局 正会員 *4 リョービ(株) 正会員）

3.6. 日本規格協会 理事長賞（2022 年度）

・日本規格協会理事長賞の本審査会を 1 月 26 日に開催し、1 件の授賞を決定しました。

受賞者：福本康博（マツダ(株)） 会員 No：11513

応募者：大塚宏明（マツダ(株)）／推薦者：安達範久（マツダ(株)）

・日本規格協会理事長賞の応募促進策を検討しましたが、具体策の発案・実行に至りませんでした。FY22 も検討継続します。

3.7. 学生賞 (2022 年度)

・学生賞 1 件を選定しました。

授賞研究

・研究題目：３Dプリンタ試作品と射出成形部品におけるスナップフィットの機械的物性値関係性調査（卒業論文）

・受賞者 ： 國松遙平（九州工業大学 情報工学部 知的システム工学科 4 年）

・指導教員： 楢原弘之（九州工業大学大学院 情報工学研究院 教授）

・学生賞の応募促進にあたり、学校教育委員会の協力を仰いで学校交流会で発表した学生諸氏とその研究室に応募を働きかけました。複数件の応募がありましたが件数は例年同レベルであり、十分とは言えない結果となりました。

3.8. 田口賞

・残念ながら 2021 年は田口賞審査に諮る組織体候補を選定するに至らず、田口賞授賞審査は見送りました。

・田口賞自己審査ツールの構想検討を開始しました。次年度も継続検討します。

3.9. 貢献賞 (2021 年度)

品質工学会の活動に貢献・協力した会員に授与される賞です。別途に定義された貢献賞得点を累積加算し、その得点が 100 点に達した会員に貢献賞(入賞)を、さらに 100 点ごとに銅賞(200 点)、銀賞(300 点)、金賞(400 点)を授与します。

2021 年度のポイントにより、新たに受賞されたみなさんは以下であります。(得点順、敬称略)

金賞:	楢原 弘之、越水 重臣、福本 康博	・・・ (3 名)
銀賞:	安藤 力、岩永 禎之、佐々木 康夫、熊坂 治、五味 伸之	・・・ (5 名)
銅賞:	熊坂 治、山村 英記、福島 祥夫、和田 友宏	・・・ (4 名)
入賞:	茂木 悠佑、林 秀行、小野 正幸、棚橋 真種、大内 宏伸、 中村 高士、松下 誠、大越 問、春名 一志、佐藤 幸太	・・・ (10 名)

3.10. 表彰体系および基準の見直し

・表彰体系の整理、大会発表賞の表彰審査基準の見直しについて部会内で整理検討を開始しました。2022 年度も検討継続します。

4. 学会誌その他の刊行物の発行

4.1. 学会誌「品質工学」の発行

・2021 年は論説・解説で 13 報、原著として 9 報の掲載を行いました。

Vol.29 No.3 (2021年7月号)

・・視 点	品質工学のネットワークーつながりーについて考える	編集委員会
論 説	田口玄一の考え方の構造化（3）―品質工学のマクロ構造要素について田口の論文による検証―	吉澤正孝
解 説	損失関数の話をしませんか（その3）―定期交換― 田口玄一とセミナー事務局 2020年研究論文振返り（1）	細井光夫 中泉 純＋矢野耕也 審査表彰部会/出版部会編集委員会
事例研究	ナノ秒パルス放電プラズマオゾナイザにおけるオゾン生成濃度の最大化	小笠原明彦＋岩﨑明暉＋市耒竜也＋坂本琢馬＋王 斗艶＋浪平隆男＋河田直樹＋福島祥夫
実施報告	紙コプタの自宅実験によるパラメータ設計の遠隔授業	小笠原明彦＋河田直樹＋福島祥夫
QEスクエア	3水準の交互作用	細井光夫

Vol.29 No.4 (2021年10月号)

・・視 点	ポストコロナ時代に学会に求められること	編集委員会
解 説	各分野の専門家との誌上討論 シミュレーションによるロバスト設計（1）―ノイズ因子の与え方―	角 有司/山戸田武史/浜田和孝/太田勝之/細川哲夫/芝野広志/坂本雅基/沢田龍作/橋和仁/田口 伸/常田 聡/中島建夫/細井光夫/見原文雄/矢野耕也
	2020年研究論文振返り（2） 科学的思考から技術的思考へ	審査表彰部会/出版部会編集委員会 原 和彦/矢野耕也
開発と研究	差圧特性の機能性評価による医療用正流・逆流バルブの技術開発	木下秀明/山元翔太/小林正彦/嘉指伸一
	パルスエアによる微粒子除去特性に関する研究	森 政尚/大越 問/川上幸男
QEスクエア	標準化誤圧再考	細井光夫

Vol.30 No.1（2022年1月号）

視 点	品質工学賞：品質工学への期待	高増 潔
・・視 点	新型コロナウイルスという「災害」に対する「社会損失」の評価	編集委員会
解 説	第29回品質工学研究発表大会の振返り	明吉秀樹＋安藤 力＋糸久正人＋田村希志臣＋中島建夫＋浜田和孝＋吉澤正孝
	「技術品質」と「商品品質」―「品質工学関連用語集」編纂での議論より― 田口玄一博士を仰ぎ見て	太田勝之＋芝野広志＋武澤泰則＋田口 伸＋畠山 鎮＋浜田和孝＋細川哲夫 嘉指伸一＋水谷淳之介＋山本桂一郎＋早川幸弘
	IT化の進展と「品質工学」誌のこれから（その1）	出版部会編集委員会
事例研究	ドリル加工における周期分析を用いた電力評価法についての研究	五味伸之＋寶山靖浩＋矢野 宏
	転写性を用いたパラメータ設計による3Dプリンタにおける印刷条件の最適化	中原 真＋石井尚正＋五味伸之
	金型補修のための肉盛溶接のバーチャル設計と機能性評価	寶山靖浩
QEスクエア	次元混在データとRT法	手島昌一+田中靖人+澤田静雄+須川雅之+長谷川良子+前田誠+西巻寛之+山本敦子+田口伸
追悼	久米原宏之監事	

・ページ総数 418 で、隔月刊時代の 466 には若干減少をしています。
・「QE スクエア」は毎号欠かさず掲載をすることが出来ております。
・2021 年は元日本規格協会の中泉氏、関西品質工学研究会の原和彦氏のインタビュー記事を掲載しました。
・Vol.29、No.4 でシミュレーションに関するテーマで解説記事の掲載を行いましたが、未収録の部分について、さらなる検討を続け、2022 年の掲載を予定しております。
・編集委員会の中で、学会創設 30 周年に関するテーマを募集しています。田口玄一のあまり知られていない記事の紹介なども検討しております。

4.2. 同誌掲載論文のレビュー

・第 29 回品質工学研究発表大会の研究発表に対するレビュー記事を学会誌 1 月号に掲載しました。
・2021 年の学会誌掲載論文に対するレビュー記事を学会誌 4 月号に掲載しました。

4.3. 同誌の編集と投稿数の増加施策

・投稿規程の見直しをはかり、2021 年 6 月 9 日に改訂を行いました。
・2022 年 3 月 9 日に、英文投稿規程の不足部分について再改定を加えました。
・2021 年 7 月以降、電子データでの投稿を受け付けるよう整備致しました。
・査読プロセスについて、査読用紙の整備を含めて検討中です。"
・対面での取材が容易でないため、若干ペースダウンしております。"
・解説原稿の掲載は継続をしておりますが、論説については若干少ない状態でした。
・優秀な事例については、継続して投稿を呼びかけております。
・2021 年から季刊化が始まりましたが、総ページ数は隔月刊とほぼ同等を維持しております。
・新規編集委員の発掘を心掛け、現役の編集委員から一部推薦を得るよう交渉をお願いしております。

5. 研究発表大会、研究集会等の開催

5.1. 品質工学研究発表大会

・第 29 回品質工学研究発表大会（RQES2021S）を，2021 年 6 月 24 日，25 日に，完全オンラインで開催しました。国内産業界の研究者・技術開発者を中心に 358 名が参加しました。初のリモート開催に対して賛否はあるものの，オンラインで開催することは概ねポジティブな意見をいただきました。

・第 29 回品質工学研究発表大会（RQES2021S）を，統計数理研究所を運営会場として実施しました。また、統計数理研究所への実施報告を行いました。初のリモート開催でしたが，統計数理研究所の協力もあり，大きな問題無く配信することができました。

・RQES2021S では，地方研究会を含めた 77 件の発表を実施しました。

・RQES2021S では，実行委員特別企画として，「基調講演」および「商品開発プロセス研究会活動報告」を実施しました。基調講演に関連して肯定的な意見を多くいただきました。統計と品質工学の融合や新しい品質工学会への期待がうかがえます。

5.2. ICRQE2021

大会（9 月）まで毎月委員会を開催し以下を進めました。

1）発表者募集、発表採用検討および採用通知 ～5 月中旬

最終的に発表件数は 20 件（日本 10 件、アメリカ 3 件、中国 3 件、マレーシア 2 件、ドイツ 1 件、ブラジル 1）、5 セッション（MT システム、T 法 + CS-T 法、ロバスト最適化-1、ロバスト最適化-2、エンジニアリング プロセス）となりました。

2）予稿、発表動画およびスクリプト準備 ～8 月 23 日

アップロードサイトを準備し発表者にアップロードを依頼しました。

集めた資料はカンファレンスページへ随時移行し公開準備を実施しました。

3）国際大会 9 月 10 日～24 日にわたり開催しました。

・オンデマンドプレゼンテーション日程を当初 17 日までとしていましたが、24 日まで延長して視聴していただけるようにしました。

・ライブディスカッションを 9 月 17 日に実施しました。

参加人数は、ライブディスカッション 90 名、WEB ディスカッション 105 名で、想定上の多数の方に参加いただきました。

4）発表賞

別途審査員会を立上げ発表賞を検討し、 Taguchi Award 各章（9 件の発表と 1 団体）を決定しました。賞状は後日作成し受賞者へ送りました。

5）大会報告＆引継ぎ

大会報告書を作成し学会 HP へ掲載した（2022 年 11 月）

なお報告書内へ次回開催への引継ぎ事項も記載した。

6）ICRQE2021 開催検討会の解散

大会報告書完成を持って ICRQE2021 開催検討会を解散しました。

メンバー：浜田、田口、細川、舟山、高松、塩沢、熊坂、宮城、救仁郷

5.3. 品質工学技術戦略発表大会

・第１４回品質工学技術戦略研究発表大会（RQES202１A）を 202１年 11 月２６日に学会事務所を運営会場として完全リモートにて開催しました。
・大会参加者は 120 名（正会員 67 名、非会員 3 名、賛助会員 15 名、招待者 31 名、名誉会員４名）でした。
・基調講演は、経済産業省産業技術環境局産業技術環境政策統括調整官　三橋敏宏様をお招きし、「ニューノーマル時代の製造業とイノベーション」との題目で、我が国の製造業をめぐる動向を講演いただきました。その後、研究発表５件、パネル討論を発表議論しました。
・大会予稿集を pdf 化したうえ事前配布し、参加者の更なる理解に努めました。
・本大会の実施報告を学会誌 Vol.30,No.2（４月号）に掲載予定です。

5.4. 企業交流会

2022 年 1 月 21 日に第 32 回企業交流会を下記のプログラムで開催いたしました．65 名の参加者を得て，参加者に多くの気づきを与えることができました．

10:00　開会挨拶　品質工学会会長　椿広計
10:10　特別講演 「日本一労働時間が短い"超ホワイト企業"は利益率業界一」未来工業㈱　社長　山田雅裕
11:35　基調講演 「新たなビジネスの創出を目指し、車載電装品の提案型ビジネスの構築と顧客満足の実現を！」 元アルプスアルパイン㈱　技術本部・顧問　澤田謙次
13:30　事例発表
（1）人の感性に訴える魚釣り用リールの究極の巻き心地を求めて-基本機能による創造的開発の可能性- ㈱シマノ　井上徹夫
（2）製品機能向上型開発から市場価値創出型開発への転換による新規市場創出活動　リコーインダストリアルソリューションズ㈱　成田博和
（3）コマツにおけるダントツものづくりと DX による顧客価値最大化の取り組み　Immersive Technologies Pty. Ltd.　浅田寿士
15:15　パネルディスカッション 「要求仕様達成型から価値提案型への事業変革」～価値創造を実現する技法活用とマネジメントの在り方～
司会：ＴＭ実践塾代表　芝野広志　パネリスト：　講演者，事例発表者
16:50　閉会挨拶

5.5. 次世代経営研究会

経営者向けの事業として「次世代経営研究会」を 2020 年 11 月より発足いたしました。2021 年度は 3 か月毎に基調講演＋パネル等討論会を基本構成とした定例会を開催し、第 3 回を 2021 年 5 月 18 日（火）に、第 4 回を 2021 年 8 月 20 日（金）に、第 5 回を 2021 年 11 月 15 日（月）に、第 6 回を 2022 年 2 月 15 日（火）にオンラインで開催いたしました。

第 3 回はコニカミノルタ（株）の武部浩太郎氏（技術戦略部技術支援グループリーダー・部長）より「イノベーションを創出する経営への取り組み」という基調講演のもとに、企業におけるイノベーションを創出するための経営施策の方向性について議論をしました。第 4 回は古河電気工業（株）の石川卓成氏（研究開発本部サステナブルテクノロジー研究所解析技術センター主査）より「幅広い事業を有するメーカとしての経営課題とその対策」という基調講演のもとに、顧客のニーズがより高度化していき、品質に対する経営の傾注度が下がってきている中で、サステナブルな経営をどのようにするかの対応を議論しました。第 5 回 は（株）小松製作所の岩本祐一氏（専務執行役員・CTO）より「お客様になくてはならない存在になるためにコマツのブランドマネジメント活動と顧客価値創造」の基調講演のもとに、プロダクトアウトになる経営視点をカストマーインの視点での活動を行うための、トップ層とボトム層、そしてミドル層の振る舞いについて議論しました。第 6 回は（一社）情報処理学会事務局長の木下泰三氏より「経営者から見た IoT/AI/DX 戦略と先端事例」の基調講演をもとに、IoT・ビックデータ・AI の技術を活用した企業価値の向上とそれに伴う DX 戦略について、経営者の視点での分析と課題を議論しました。

また定例会とは併行して過去の定例会から抽出された重要な経営課題について、登録メンバーが頻繁に議論していく場として WG を発足することにしました。その準備委員会を運営委員会から 7 名参画し 2022 年 2 月より立ち上げました。そこで過去の定例会から抽出した日本企業の経営課題をまとめています。それを元に WG の進め方を検討しており、WG は 2022 年度上期より正式に発足する予定で進めています。

5.6. 学校交流会

・2021 年 9 月 3 日に今年度 1 回目の学校交流会を開催。学生賞受賞テーマ 3 件、中間報告 3 件、研究計画 3 件 の発表があった。

学生賞受賞テーマ

- 「タグチメソッドによるペルチェ式生体用冷却装置の外気温変化に対するロバスト性と省エネ性能の向上」 和歌山大学 梅田隆生（指導教員 鈴木新）
- 「主観的コンディションデータによる投手の怪我検知―MT 法と多変量管理図の適用―」 慶應義塾大学 谷口勇紀（指導教員 鈴木秀男）
- 「MT 法による音声および打音の判定技術に関する研究」 日本工業大学 指導教員 二ノ宮進一（受賞者 舟山善貴）

研究計画報告

- 「模型実験による鉄道車両の状態監視技術の研究」 埼玉工業大学大学院 機械工学専攻 1 年 池田圭佑（河田研究室）
- 「超硬合金の収縮予測における予測手法の比較」 福井工業高等専門学校 機械工学科 5 年 昆沙賀充（伊勢研究室）
- 「3D プリンタ用樹脂フィラメント成形条件の最適化」 九州工業大学情報工学部 知的システム工学科 4 年 國松遙平（楢原研究室）

研究中間報告

- 「3D プリンタ最適化に関する基礎的研究」 埼玉工業大学工学部 機械工学科 4 年 橘高周平（五味研究室）

- 「教材としてのヒートシンクの最適設計」 西日本工業大学工学部 総合システム工学科 4 年 Duong Dinh Hieu（石田研究室）
- 「金型変形可視化による状態監視システムの検討」 埼玉工業大学大学院 博士前期課程 1 年 金城寿（福島研究室）

・2022 年 3 月 4 日(金) に今年度第 2 回目の学校交流会を開催。

＜基調講演＞

- 「着磁条件による磁石表面の磁束密度分布制御」 発表者 ㈱東海理化 山村英紀

＜卒業研究中間発表＞

- 「模型を用いた MT 法による鉄道車両の状態監視技術の研究」 埼玉工業大学大学院 1 年 池田圭佑
- 「金型変形挙動可視化への MT 法の適用」 埼玉工業大学大学院工学研究科博士前期 1 年 金城寿

＜卒業研究発表＞

- 「3D プリンタ試作品と射出成形部品における スナップフィットの機械的物性値関係性調査」 九州工業大学 知的システム工学科 4 年 國松遙平
- 「超硬合金の収縮予測における予測手法の比較」 福井工業高等専門学校 機械工学科 5 年 昆沙賀充
- 「3D プリンタ製ウクレレの研究」 埼玉工業大学工学部機械工学科 4 年 橋本隼輔

6. 品質工学情報の収集、提供

6.1. 論文電子公開(J-Stage)

品質工学の普及宣伝また研究や応用のための先行事例参照の利便性を図るため、学会誌掲載後 1 年を経過した研究論文、論説、解説等の J-STAGE を利用し電子公開しています。しかしながら、今年度も追加公開を実施できず、次年度中に追いつくようにします。

6.2. 事例データベースの作成

前年より継続して取り組んでいます。コロナ禍で開催できなかった第 28 回大会（2020 年）を除き、第 29 回までの 2330 件あまりの発表の予稿をもとに、事例名称、発表者、所属、内容概要などを抽出し、検索できるようにしたものです。

情報提供の範囲で一般公開用と会員公開用に分けることとし、一般公開用は事例名称、発表者、所属までとしており、完成させました。会員公開用はさらに内容概要を含めた内容とすることとし、継続作成中です。

6.3. 品質工学用語集の作成

・当初計画では、2007 年に学会規格として発行された「品質工学用語」の改定を行う予定でしたが、品質工学が多岐にわたる技術分野で活用されており、品質工学用語に限定せず、論文作成や論文を読む際のサポートのための関連用語も含めた用語集を作成することに方針を変更して、「品質工学関連用語集」を編纂し、学会 HP で公開しました。(2021.6.1)
http://www.rqes.or.jp/archives/library/RQE_glossaries_Collection/RQE_glossaries_Collection.html

・用語集編纂過程の議論の一端を紹介する目的で、「技術品質」と「商品品質」の論議内容を学会誌 Vol30.No1 に掲載しました。

7. 内外の関係団体との連絡および提携

7.1. 日本規格協会

「日本規格協会理事長賞」のスポンサーシップいただき、両者での連携について検討を進めています。

7.2. 日本品質管理学会

一般社団法人日本品質管理学会と共同の研究会「商品開発プロセス研究会」活動を継続しています。

7.3. 産業技術総合研究所

一般社団法人ミニマルファブ推進機構のファブシステム研究会を公的機関として継続して入会しています。2021 年度は品質工学活用に関する相談案件はなく、総会参加のみの活動でした。

7.4. 農林水産省

2021 年度も、具体的な活動は実施できませんでした。

7.5. JAXA/宇宙航空研究開発機構

JAXA と品質工学会の共同研究として、ロバスト設計の標準書に沿った活動を継続しました。

8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

8.1. 会議体運営

定時社員総会: 発表大会 2 日目にリモート開催しました。社員総数 126 名中 108 名(リモート 66、委任状 42)の出席のもと、2020 年度事業報告/決算報告、名誉会員の推薦、さらに 2021 年度の事計画と予算案について承認いただけた。

理事会: 2021 年 6、9、12 月および 2022 年 3 月の計 4 回定例通りに開催し、諸賞の授与承認、規程の改定、新型コロナィルス感染に対する方針などを決議しました。

部会長会議: 毎月 1 回計 12 回定例通りに開催し、情報共有また議論を交え学会運営をリードしてきました。

8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)

コロナの影響によるイベント参加費の減収に対応し、支出を抑制しつつ、事業活動収支では若干の黒字に漕ぎつけました。

8.3. 代議員選挙の運営

2022 年度より法人第 4 期の代議員専任の為の、代議員選挙を実施し計 126 名の方々に当選証書を発行して第 3 期代議員に就任いただきました。

8.4. 新型コロナィルス感染対応

2020 年制定、2021 年改訂の 「品質工学会の新型コロナウイルス感染に対する方針」を堅持し、対応してきました。

8.5. 規程整備

総務主管では「定款運用細則」の改定と「慶弔規程」を制定しました。

[審議] 第 2 号議案

2021 年度 決算報告

1. 決算概要

2. 財務諸表
 2.1. 貸借対応表、正味財産増減計算書、収支計算書
  2.1.1. 総合計
  2.1.2. 一般会計
  2.1.3. 学生賞特別会計
  2.1.4. 地震予知 MT システム研究特別会計
  2.1.5. 田口賞特別会計
 2.2. 収益事業損益計算書

3. 監査報告書

1. 決算概要

品質工学会の会計は、**一般会計**と**３つの特別会計**で構成されています。

一般会計は**活動全般**に関わるものですが、特別会計は**田口賞、学生賞、地震予知 MT システム研究**に関わる事業に限定したもので、それぞれを目的とした基金より成り立っているため、一般会計とは独立した会計として運用しています。

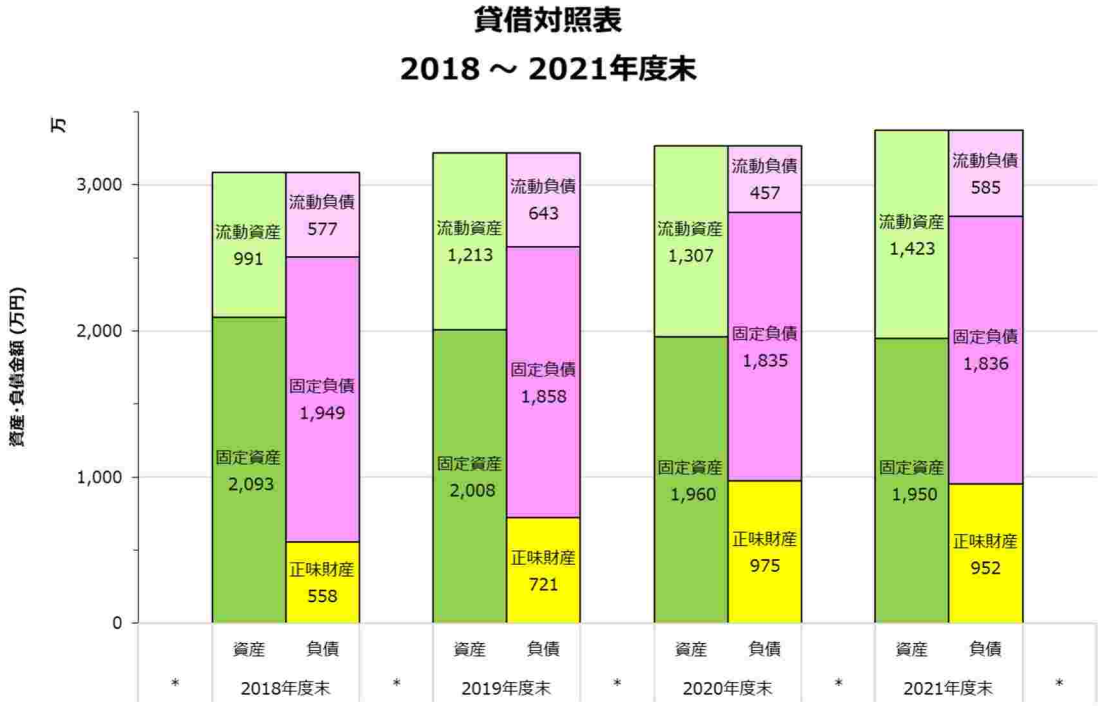
以下、本決算報告では、特別会計３会計の合計収支総額が、全４会計合計の 0.5%に満たないことから、４会計をまとめた**「総合計」の財務諸表**(貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書、収支計算書)からのトピックスを報告します。

個々の会計の詳細についてはそれぞれの財務諸表(別紙)を御参照ください。

なお、会計方式は、将来、公益法人への移行を念頭に、公益法人方式を採用しています。

財務諸表に関する概要説明

1) 貸借対照表



資産合計は前年の年度末に比べ約 100 万円増加しましたが、概ね昨年のレベルを維持しております。微増分は流動資産・負債でが、固定資産・負債および正味財産にはほぼ変動ありません。

① 資産微増は、事業活動収支の黒字の結果ですが、主に翌 2022 年度会費の年度内納入率が高く、例年より前受金が多く計上されたことによります。

② 固定資産(各種引当金)への積み増しは、見送りました。次年度もコロナによる世間全般の自粛傾向解消など、収入増の要素が見込めないためこのように処置しております。

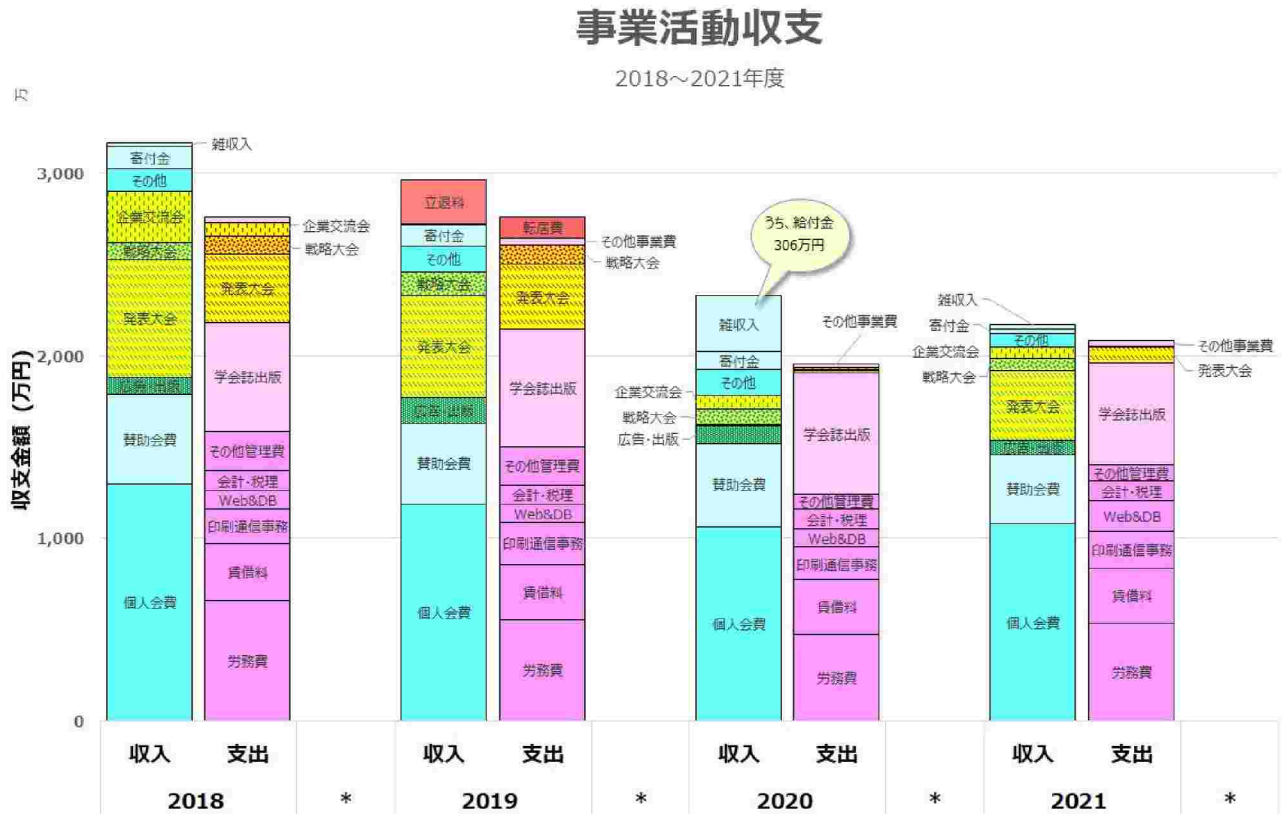
2) 収支計算書

①【事業活動収支】: 2021 年度は約 50 万円の黒字で着地できました。

一昨年には中止とした大会の復活などにより給付金・寄付金を除いた収入は回復しつつあります。但し、発表大会などイベントの参加者は減少しており参加費収入も減ってきています。

そのような減収傾向にあっても収支を維持出来てきたのは、主、に A:リモート開催による会場費節減、B:資料電子化による印刷費削減、C:学会誌発行号数の削減(6→4 号/年)などによるものです。

なお、今後、コロナ自粛の解消にともないリアル開催の復活も計画されておりますが、参加者増が見込めない場合には上記 A の裏返しの理由によって収支の悪化を招く恐れがあり、そのためにも参加者を増加する策を充分に検討し実行いただきたい。



②【投資活動収支】: 約マイナス 50 万円の収支差額としました。コロナ禍により、引き続き見通しが不明なため、貢献賞および学生賞の贈賞に関わる経費分(計 17 万円)の取り崩しに留めました。支出としては、貢献賞基金に寄付金 17 万円の積み立て、1 年経過後出版物の棚卸廃棄損約 50 万円を計上。

③【財務活動収支】: 納税関連で、法人税と印紙等の租税公課です。今年度も、収益事業分の税引き前利益が僅少(収益事業損益計算書参照)であったため所得税の課税対象に至らず、法人住民税均等割の 7 万円のみとなりました。

③ 【当期収支差額】は【事業活動】、【投資活動】、【財務活動】の収支差額と【予備費】の支出(=0 円)を合計したもので、当期は約 10 万円の赤字で着地できました。

④ 【繰越金】は前期からの約 850 万円に対し、前項の【当期収支差額】約マイナス 10 万円を合わせ、約 840 万円を【次期繰越金】としました。

※ 事業活動収支の科目別内容に関する補足説明

《事業活動収入》

- 2021 年度は、発表大会復活に伴いその参加費収入を低めに計上しておりましたが対予算+30 万円強、その他イベントでも企業交流会と次世代経営研究会で予算以上の収入がありました。但し、学会誌発行号数の減少に伴い掲載広告料収入と賛助会員会費は予算未達でありました。

《事業活動支出》

- 【事業活動支出】: 以下の【事業費支出】と【管理費支出】の合計で、対予算約 60 万円アンダーで着地できました。
- 【事業費支出】: 対予算約 160 万円アンダーという結果になりました。
  全般的に経費削減にご協力いただけた結果であります。各部会・委員会の皆様ありがとうございました。
- 【管理費支出】: 対予算約 100 万円オーバーとなりました。
  リモート化に伴い各種イベントに関しても事務作業が増えたこと、またリモート運営やクレジット支払い導入に必要な Web システム/ページの追加等々のための経費増でした。但し、通常事務については不要不急の費用カットとコストダウンで抑えております。

《事業活動収支差額》

- 上記の通り、対予算で**《事業活動収入》**が 30 万円強の増収、**《事業活動支出》**が約 60 万円アンダー、合せて対予算+約 100 万円で着地した結果、約 50 万円の赤字予算に対し、約 50 万円の黒字とすることができました。

2. 特別会計

2.1 学生賞特別会計

- 2021 年度は審査 3 件を実施しました。
- 審査費用その他の総支出 2 万円強に対し、積立金より同額を取り崩し、その差額と前期繰り越しとを合わせ約 3 万円を次期繰越金とし、2020 年度末で約 70 万円の総資産となりました。

2.2 地震予知 MT システム研究特別会計

- 2021 年度は活動が無く、事務経費のみ 550 円の支出がありました。
- 年度末で総資産約 33 万円を維持しております。

2.3 田口賞特別会計

- 2021 年度は審査を行わなかったため、全項目同様に、事務経費のみ 520 円の支出がありました。
- 結果として、総資産約 480 万円を維持しております。

2. 財務諸表

2.1.貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書総合計

2.1.1. 総合計

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅲ 正味財産の部			
1 一般正味財産	9,523,990	9,753,521	△229,531
正味財産合計	9,523,990	9,753,521	△229,531
負債及び正味財産合計	33,727,837	32,676,984	1,050,853

一般社団法人品質工学会
(9999) 総合計

貸借対照表

令和 4年 3月 31日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	13,730,794	11,758,731	1,972,063
未収金	30,000		30,000
貯蔵品	215,827	557,956	△342,129
前払金	250,000	755,302	△505,302
流動資産合計	14,226,621	13,071,989	1,154,632
2 固定資産			
(1) その他固定資産			
資格資質基金積立預金みずほ	1,215,758	1,192,499	23,259
学会活動積立引当預金（U	5,016,470	5,016,470	
周年記念積立引当預金（U	5,699,193	5,699,643	△450
退職給与引当預金（UFJ	1,099,120	1,099,120	
出口賞積立引当預金	4,350,000	4,350,000	
学生賞積立引当預金	671,895	694,317	△22,422
地震予知積立引当預金	302,946	302,946	
差入敷金	1,000,000	1,000,000	
長期前払費用	145,834	250,000	△104,166
その他固定資産合計	19,501,216	19,604,995	△103,779
固定資産合計	19,501,216	19,604,995	△103,779
資産合計	33,727,837	32,676,984	1,050,853
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	440,440	455,609	△15,169
前受金	5,322,000	4,011,000	1,311,000
預り金	15,825	31,459	△15,634
仮受金	200	400	△200
未払法人税等	70,000	70,000	
流動負債合計	5,848,465	4,568,468	1,279,997
2 固定負債			
資格資質基金引当金	1,215,758	1,192,499	23,259
学会活動積立引当金	5,016,470	5,016,470	
周年記念引当金	5,699,193	5,699,643	△450
退職給与引当金	1,099,120	1,099,120	
出口賞基金引当金	4,350,000	4,350,000	
学生賞基金引当金	671,895	694,317	△22,422
地震予知基金引当金	302,946	302,946	
固定負債合計	18,355,382	18,354,995	387
負債合計	24,203,847	22,923,463	1,280,384

一般社団法人品質工学会
(9999) 総合計

正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 入会金	114,000	88,000	26,000
入会金	114,000	88,000	26,000
② 年度会費	14,608,500	15,232,000	△623,500
正会員会費	10,842,000	10,645,000	197,000
学生会員会費	16,500	12,000	4,500
賛助会員会費	3,750,000	4,575,000	△825,000
③ 事業収入	6,355,325	3,028,433	3,326,892
学会誌出版			
出版物収入	472,175	196,133	276,042
掲載広告料	324,000	786,000	△462,000
学会誌出版計	796,175	982,133	△185,958
研究発表大会			
研究・参加費	3,552,550		3,552,550
研究・予稿購読	257,600	35,800	221,800
研究発表大会計	3,810,150	35,800	3,774,350
技術戦略研究発表大会			
技術・参加費	700,000	840,000	△140,000
技術戦略研究発表大会計	700,000	840,000	△140,000
企業交流会			
企交・参加費	606,000	788,000	△182,000
企業交流会計	606,000	788,000	△182,000
経営講演会			
経営講演参加費	328,000	170,000	158,000
経営講演会計	328,000	170,000	158,000
特別講座開催	110,000	190,000	△80,000
資格制度申請登録料	5,000	22,500	△17,500
④ 受取補助金等	170,400	350,800	△180,400
精密測定財団寄付助成金	170,400	350,800	△180,400
⑤ 雑収益	230,000	950,000	△720,000
資格資質寄付金	170,000	140,000	30,000
一般寄付金	60,000	810,000	△750,000
⑥ 経常収入	250,043	3,670,146	△3,420,103
受取利息	320	325	△5
雑収入	80,900	3,102,196	△3,022,296
資格資質基金引当金取崩額	146,751	468,025	△321,274
周年記念積立引当金取崩額	550	550	
学生賞積立引当金取崩額	22,422	98,750	△76,328

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
経常収益計	21,728,268	23,319,379	△1,591,111
(2) 経常費用			
1. 事業費			
事業経費	6,804,959	7,193,338	△388,379
学会誌出版			
学会誌作成費	4,716,509	5,413,852	△697,343
学会誌外注委託	240,820	341,559	△100,739
学会誌発送費	592,342	934,633	△342,291
出版部会費	41,977		41,977
学会誌出版計	5,591,648	6,690,044	△1,098,396
研究発表大会			
研究・会場費	405,844		405,844
研究・論文印刷	273,964		273,964
研究・大会経費	158,104	23,100	135,004
研究・委員会費	6,923		6,923
研究・2021準備	29,544	96,800	△67,256
研究発表大会計	874,379	119,900	754,479
技術戦略研究発表大会			
技術・資料印刷		38,566	△38,566
技術・大会経費	16,790	16,254	536
技術・委員会費	1,195	9,846	△8,651
技術戦略研究発表大会計	17,985	64,666	△46,681
企業交流会			
企交・経費		99,872	△99,872
企業交流会計		99,872	△99,872
経営講演会			
経講・経費	52,911	63,651	△10,740
経営講演会計	52,911	63,651	△10,740
教育特別講座			
教育・講師費	40,000	43,312	△3,312
教育・教材備守	64,972	42,450	22,522
教育特別講座計	104,972	85,762	19,210
事業部会費			
事業部会費	1,584		1,584
事業部会費計	1,584		1,584
審査表彰			
学生賞審査経費	22,422		22,422
審査表彰部会費	101,108		101,108
審査表彰計	123,530		123,530
学生賞審査経費		68,750	△68,750

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
研究会連携委員会費		693	△693
技術向上委員会費	37,950		37,950
事業費合計	6,804,959	7,193,338	△388,379
2. 管理費			
3) 管理費			
広報			
宣伝活動費	407,490	16,500	390,990
公式WEB経費	141,306	45,436	95,870
広報計	548,796	61,936	486,860
審査			
審査会費		44,000	△44,000
審査表彰部会費		58,488	△58,488
審査計		102,488	△102,488
記念品			
貢献賞記念品費	146,751	268,025	△121,274
会長委員長賞費	47,190		47,190
記念品計	193,941	268,025	△74,084
総務			
労務費	5,354,583	4,725,803	628,780
事務費	883,918	747,511	136,407
印刷・通信	1,170,825	1,039,953	130,872
総務部会費	349,394	331,950	△182,646
会計士・税理士	1,105,500	1,105,500	
事務所賃借料	3,000,000	3,000,000	
総務計	11,664,130	10,950,717	713,413
システムメンテナンス			
WEBメンテ費	1,606,220	860,640	745,580
IT設備費	27,600	155,244	△127,644
システムメンテナンス計	1,633,820	1,015,884	617,936
管理費計	14,040,687	12,399,050	1,641,637
管理費合計	14,040,687	12,399,050	1,641,637
経常費用計	20,845,646	19,592,388	1,253,258
評価損益等調整前当期経常増減額	882,622	3,726,991	△2,844,369
2) 特定引当金繰入	170,110	340,114	△170,004
貢献賞引当金繰入	170,010	340,012	△170,002
周年記念引当繰入	100	102	△2
特定資産評価損益等	△170,110	△340,114	170,004
評価損益等計	△170,110	△340,114	170,004
当期経常増減額	712,512	3,386,877	△2,674,365

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産売却損	872,001	768,843	103,158
棚卸資産廃棄損	517,835	518,843	△1,008
長期前払費用償却	354,166	250,000	104,166
経常外費用計	872,001	768,843	103,158
当期経常外増減額	△872,001	△768,843	△103,158
税引前当期一般正味財産増減額	△159,489	2,618,034	△2,777,523
住民税公課	42	45	△3
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△229,531	2,547,989	△2,777,520
一般正味財産期首残高	9,753,521	7,205,532	2,547,989
一般正味財産期末残高	9,523,990	9,753,521	△229,531
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	9,523,990	9,753,521	△229,531

一般社団法人品質工学会
(9999) 総合計

収支計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	未異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 入会金収入	84,000	114,000	△30,000	
入会金収入	84,000	114,000	△30,000	
② 年度会費収入	14,949,000	14,608,500	340,500	
正会員会費収入	10,872,000	10,842,000	30,000	
学生会員会費収入	27,000	16,500	10,500	
賛助会員会費収入	4,050,000	3,750,000	300,000	
③ 事業収入	5,665,000	6,355,325	△690,325	
学会誌出版収入				
出版物収入	200,000	472,175	△272,175	
掲載広告料	750,000	324,000	426,000	
学会誌出版収入計	950,000	796,175	153,825	
研究発表大会収入				
研究・参加費	3,000,000	3,552,550	△552,550	
研究・予稿集誌	30,000	257,600	△227,600	
研究発表大会収入計	3,030,000	3,810,150	△780,150	
技術戦略研究発表大会収入				
技術・参加費	900,000	700,000	200,000	
技術戦略研究発表大会収入計	900,000	700,000	200,000	
企業交流会収入				
企交・参加費	360,000	606,000	△246,000	
企業交流会収入計	360,000	606,000	△246,000	
経営・講演会収入				
経営講演参加費	200,000	328,000	△128,000	
経営・講演会収入計	200,000	328,000	△128,000	
特別講座参加費収入				
特別講座参加費	200,000	110,000	90,000	
特別講座参加費収入計	200,000	110,000	90,000	
資格制度申請登録料収入	25,000	5,000	20,000	
④ 受取補助金等収入	180,000	170,400	9,600	
精密測定財団審査助成金収	180,000	170,400	9,600	
⑤ 寄付金収入	200,000	250,000	△50,000	
一般寄付金	150,000	60,000	90,000	
貢献賞寄付金	50,000	190,000	△140,000	
⑥ 雑収入	150,300	80,320	69,980	
受取利息収入	300	320	△20	
雑収入	150,000	80,000	70,000	
事業活動収入計	21,328,300	21,658,545	△330,245	

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	8,383,000	6,804,959	1,580,041	
学会誌出版支出				
学会誌作成費	4,800,000	4,716,509	83,491	
学会誌外注委託	350,000	240,820	109,180	
学会誌発送費	600,000	592,342	7,658	
出版部会費	80,000	41,977	38,023	
学会誌出版支出計	5,830,000	5,591,648	238,352	
研究発表大会支出				
研究・会場費	400,000	405,844	△5,844	
研究・論文印刷	180,000	273,964	△93,964	
研究・大会運費	10,000	158,104	△148,104	
研究・委員会費	16,000	6,923	3,077	
研究・2021準備	80,000	29,544	50,456	
研究発表大会支出計	686,000	874,379	△194,379	
技術職務研究発表大会支出				
技術・大会経費	150,000	16,790	133,210	
技術・委員会費	80,000	1,195	78,805	
技術職務研究発表大会支出計	230,000	17,985	212,015	
企業交流会支出				
企交・経費	100,000		100,000	
企業交流会支出計	100,000		100,000	
経営講演会支出				
経講・経費	100,000	52,911	47,089	
経営講演会支出計	100,000	52,911	47,089	
教育特別講座開催支出				
教育・講師費	150,000	40,000	110,000	
教育・教材保守	115,000	64,972	50,028	
教育特別講座開催支出計	265,000	104,972	160,028	
新規開発プロジェクト支出				
新規プロジェクト費	80,000		80,000	
資格認定経費	80,000		80,000	
新規開発プロジェクト支出計	160,000		160,000	
事業部会費支出				
事業部会	80,000	1,584	78,416	
事業部会費支出計	80,000	1,584	78,416	
褒賞表彰支出				
研究賞審査経費	150,000		150,000	
学生賞審査経費	70,000	22,422	47,578	

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
学会活動積立引当取崩収入	500,000		500,000	
周年記念積立引当取崩収入	200,000	550	199,450	
出口賞引当積金取崩収入	180,000		180,000	
学生賞引当預金取崩収入	70,000	22,422	47,578	
地震予知引当積金取崩収入	30,000		30,000	
投資活動収入計	1,150,000	169,723	980,277	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出	50,000	170,110	△120,110	
長期資積立金積立支出	50,000	170,010	△120,010	
周年記念積立金積立支出		100	△100	
② 固定資産取得支出	250,000	517,835	△267,835	
建物取得支出	250,000	517,835	△267,835	
投資活動支出計	300,000	687,945	△387,945	
投資活動収支差額	850,000	518,222	1,368,222	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
① その他財務活動支出	75,000	70,042	4,958	
租税公課	5,000	42	4,958	
法人税等	70,000	70,000		
財務活動支出計	75,000	70,042	4,958	
財務活動収支差額	△75,000	△70,042	△4,958	
Ⅳ 予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	278,360	△125,365	403,665	
前期繰越収支差額	8,503,521	8,503,521	0	
次期繰越収支差額	8,781,821	8,378,156	403,665	

(9999) 総合計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
その他雑費	130,000		130,000	
審査表彰部会費	150,000	101,148	48,852	
審査表彰支出計	500,000	123,530	376,470	
Vision30プロジェクト支出				
企業賛助委員会支出	80,000		80,000	
研究会連絡委員会支出	60,000		60,000	
学校教育委員会支出	80,000		80,000	
地震予知委員会支出	40,000		40,000	
農水省プロジェクト支出	40,000		40,000	
技術向上委員会支出	80,000	37,950	42,050	
事業費支出計	8,383,000	6,804,959	1,580,041	
② 管理費支出				
広報支出				
宣伝活動費	405,000	407,490	△2,490	
公式WEB経費	200,000	141,306	58,694	
広報部会費	120,000		120,000	
広報支出計	726,000	548,796	177,204	
記念品支出				
賞状賞記念品費	100,000	146,751	△46,751	
会長委員長賞費	50,000	47,190	2,810	
記念品支出計	150,000	193,941	△43,941	
総務支出				
労務費	5,000,000	5,354,583	△354,583	
事務費	800,000	883,918	△83,918	
印刷・通信	1,000,000	1,170,825	△170,825	
総務部会費	250,000	149,304	100,696	
会計・税理士	1,100,000	1,105,500	△5,500	
事務所賃借料	3,250,000	3,250,000		
総務支出計	11,400,000	11,914,130	△514,130	
システムメンテナンス支出				
WEBメンテ費	1,000,000	1,606,220	△606,220	
IT設備費	70,000	27,600	42,400	
システムメンテナンス支出計	1,070,000	1,633,820	△563,820	
管理費支出計	14,340,000	14,290,687	2,950,687	
事業活動支出計	31,725,000	21,095,646	629,354	
事業活動収支差額	△496,700	162,899	959,599	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	1,150,000	169,723	980,277	
長期賞積立引当取崩収入	200,000	146,751	53,249	

2.1.貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書総合計

2.1.2. 一般会計

一般社団法人品質工学会
(0001)　一般会計

貸　借　対　照　表

令和　4年　3月　31日　現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	13,190,425	11,216,902	1,973,523
未収金	30,000		30,000
貯蔵品	215,827	557,956	△342,129
前払金	250,000	755,302	△505,302
流動資産合計	13,686,252	12,530,160	1,156,092
2 固定資産			
(1) その他固定資産			
資機資基金積立預金みずほ	1,215,758	1,192,499	23,259
学会活動積立引当預金（U	5,016,470	5,016,470	
周年記念積立引当預金（U	5,699,193	5,699,643	△450
退職給与引当預金（UFJ	1,099,120	1,099,120	
差入敷金	1,000,000	1,000,000	
長期前払費用	145,834	250,000	△104,166
その他固定資産合計	14,176,375	14,257,732	△81,357
固定資産合計	14,176,375	14,257,732	△81,357
資産合計	27,862,627	26,787,892	1,074,735
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	440,440	455,609	△15,169
前受金	5,322,090	4,011,090	1,311,000
預り金	15,825	31,459	△15,634
仮受金	200	400	△200
未払法人税等	70,000	70,000	
流動負債合計	5,848,465	4,568,468	1,279,997
2 固定負債			
資機資基金引当金	1,215,758	1,192,499	23,259
学会活動積立引当金	5,016,470	5,016,470	
周年記念引当金	5,699,193	5,699,643	△450
退職給与引当金	1,099,120	1,099,120	
固定負債合計	13,030,541	13,007,732	22,809
負債合計	18,879,006	17,576,200	1,302,806
Ⅲ 正味財産の部			
1 一般正味財産	8,983,621	9,211,692	△228,071
正味財産合計	8,983,621	9,211,692	△228,071
負債及び正味財産合計	27,862,627	26,787,892	1,074,735

一般社団法人品質工学会
(0001)　一般会計

正味財産増減計算書

令和　3年　4月　1日から　令和　4年　3月　31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 入会金	114,000	88,000	26,000
入会金	114,000	88,000	26,000
② 年度会費	14,608,500	15,232,000	△623,500
正会員会費	10,842,000	10,645,000	197,000
学生会員会費	16,500	12,000	4,500
賛助会員会費	3,750,000	4,575,000	△825,000
③ 事業収入	6,355,325	3,028,433	3,326,892
学会誌出版			
出版物収入	472,175	196,133	276,042
掲載広告料	324,000	786,000	△462,000
学会誌出版計	796,175	982,133	△185,958
研究発表大会			
研究・参加費	3,552,550		3,552,550
研究・予稿購読	257,600	35,800	221,800
研究発表大会計	3,810,150	35,800	3,774,350
技術戦略研究発表大会			
技術・参加費	700,000	840,000	△140,000
技術戦略研究発表大会計	700,000	840,000	△140,000
企業交流会			
企交・参加費	606,000	788,000	△182,000
企業交流会計	606,000	788,000	△182,000
経営講演会			
経営講演参加費	328,000	170,000	158,000
経営講演会計	328,000	170,000	158,000
特別講座開催	110,000	190,000	△80,000
資格制度申請登録料	5,000	22,500	△17,500
④ 受取補助金等	170,400	350,800	△180,400
精密測定財団書害助成金	170,400	350,800	△180,400
⑤ 寄付金	230,000	950,000	△720,000
資献賞寄付金	170,000	140,000	30,000
一般寄付金	60,000	810,000	△750,000
⑥ 雑収入	227,565	3,571,338	△3,343,773
受取利息	264	267	△3
雑収入	80,000	3,192,496	△3,022,496
資献賞若命引当金取崩額	146,751	468,025	△321,274
周年記念積立引当金取崩額	550	550	
経常収益計	21,705,790	23,220,571	△1,514,781

(0001)　一般会計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
(2) 経常費用			
1. 事業費			
事業経費	6,782,537	7,124,588	△342,051
学会誌出版			
学会誌作成費	4,716,509	5,413,852	△697,343
学会誌外注委託	240,820	341,559	△100,739
学会誌発送費	592,342	934,638	△342,291
出版部会費	41,977		41,977
学会誌出版計	5,591,648	6,690,049	△1,098,396
研究発表大会			
研究・会場費	405,844		405,844
研究・編集印刷	273,964		273,964
研究・大会経費	158,101	23,100	135,001
研究・委員会費	6,923		6,923
研究・2021準備	29,544	96,800	△67,256
研究発表大会計	874,379	119,900	754,479
技術戦略研究発表大会			
技術・資料印刷		38,566	△38,566
技術・大会経費	16,790	16,254	536
技術・委員会費	1,196	9,846	△8,651
技術戦略研究発表大会計	17,986	64,666	△46,681
企業交流会			
企交・経費		99,872	△99,872
企業交流会計		99,872	△99,872
経営講演会			
経講・経費	52,911	63,651	△10,740
経営講演会計	52,911	63,651	△10,740
教育特別講座			
教育・講師費	40,000	43,312	△3,312
教育・教材保守	64,972	42,450	22,522
教育特別講座計	104,972	85,762	19,210
事業部会費			
事業部会費	1,584		1,584
事業部会費計	1,584		1,584
審査表彰			
審査表彰部会費	101,108		101,108
審査表彰計	101,108		101,108
研究会連携委員会費		693	△693
技術向上委員会費	37,950		37,950
事業費合計	6,782,537	7,124,588	△342,051

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
2.管理費			
①音地費			
広報			
宣伝活動費	407,400	16,500	390,900
公式WEB経費	141,396	45,436	95,870
広報計	548,796	61,936	486,860
審査			
審査会費		44,000	△44,000
審査表彰部会費		58,488	△58,488
審査計		102,488	△102,488
記念品			
貢献賞記念品費	146,751	268,025	△121,274
会長委員長賞費	47,190		47,190
記念品計	193,941	268,025	△74,084
総務			
労務費	5,354,583	4,725,803	628,780
事務費	882,408	746,001	136,407
印刷・通信	1,170,825	1,039,953	130,872
総務部会費	149,304	331,950	△182,646
会計士・税理士	1,105,500	1,105,500	
事務所賃借料	3,000,000	3,000,000	
総務計	11,662,620	10,949,207	713,413
システムメンテナンス			
WEBメンテ費	1,606,220	860,640	745,580
IT設備費	27,600	155,244	△127,644
システムメンテナンス計	1,633,820	1,015,884	617,936
管理費計	14,039,177	12,397,540	1,641,637
管理費合計	14,039,177	12,397,540	1,641,637
経常費用計	20,821,714	19,522,128	1,299,586
評価損益等調整前当期経常増減額	884,076	3,698,443	△2,814,367
②特定引当金繰入	170,110	340,114	△170,004
貢献賞引当金繰入	170,010	340,012	△170,002
周年記念引当繰入	100	102	△2
特定資産評価損益等	△170,110	△340,114	170,004
評価損益等計	△170,110	△340,114	170,004
当期経常増減額	713,966	3,358,329	△2,644,363
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
(2)経常外費用			
①固定資産売却損	872,001	768,843	103,158
棚卸資産廃棄損	517,835	518,843	△1,008
長期前払費用償却	354,166	250,000	104,166
経常外費用計	872,001	768,843	103,158
当期経常外増減額	△872,001	△768,843	△103,158
税引前当期一般正味財産増減額	△158,035	2,589,486	△2,747,521
住民税公課	36	39	△3
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△228,071	2,519,447	△2,747,518
一般正味財産期首残高	9,211,692	6,692,245	2,519,447
一般正味財産期末残高	8,983,621	9,211,692	△228,071
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	8,983,621	9,211,692	△228,071

一般社団法人品質工学会
(0001)　一般会計

収支計算書

令和　3年　4月　1日から　令和　4年　3月　31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	未異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1)入会金収入	84,000	114,000	△30,000	
入会金収入	84,000	114,000	△30,000	
(2)年度会費収入	14,949,000	14,608,500	340,500	
正会員会費収入	10,872,000	10,842,000	30,000	
学生会員会費収入	27,000	16,500	10,500	
賛助会員会費収入	4,050,000	3,750,000	300,000	
(3)事業収入	5,665,000	6,355,325	△690,325	
学会誌出版収入				
出版物収入	200,000	472,175	△272,175	
掲載広告料	750,000	324,000	426,000	
学会誌出版収入計	950,000	796,175	153,825	
研究発表大会収入				
研究・参加費	3,000,000	3,552,550	△552,550	
研究・予稿購読	30,000	257,600	△227,600	
研究発表大会収入計	3,030,000	3,810,150	△780,150	
技術戦略研究発表大会収入				
技術・参加費	900,000	700,000	200,000	
技術戦略研究発表大会収入計	900,000	700,000	200,000	
企業交流会収入				
企交・参加費	360,000	606,000	△246,000	
企業交流会収入計	360,000	606,000	△246,000	
経営・講演会収入				
経営・講演参加費	200,000	326,000	△126,000	
経営・講演会収入計	200,000	326,000	△126,000	
特別講座参加費収入				
特別講座参加費	200,000	110,000	90,000	
特別講座参加費収入計	200,000	110,000	90,000	
資格制度申請整理料収入	25,000	5,000	20,000	
(4)受取補助金等収入	180,000	170,400	9,600	
情索測定財団審査助成金収	180,000	170,400	9,600	
(5)寄付金収入	200,000	220,000	△20,000	
一般寄付金	150,000	60,000	90,000	
貢献賞寄付金	50,000	170,000	△120,000	
(6)雑収入	150,360	80,264	70,096	
受取利息収入	360	264	96	
雑収入	150,000	80,000	70,000	
事業活動収入計	21,228,360	21,558,489	△330,189	

(単位：円)

科目	予算額	決算額	未異	備考
2 事業活動支出				
(1)事業費支出				
事業経費支出	8,125,000	6,782,537	1,342,463	
学会誌出版支出				
学会誌作成費	4,800,000	4,716,509	83,491	
学会誌外注委託	350,000	240,820	109,180	
学会誌発送費	600,000	592,342	7,658	
出版部会費	80,000	41,977	38,023	
学会誌出版支出計	5,830,000	5,591,648	238,352	
研究発表大会支出				
研究・会場費	490,000	465,844	25,844	
研究・論文印刷	180,000	273,964	△93,964	
研究・大会経費	10,000	158,104	△148,104	
研究・委員会費	10,000	6,923	3,077	
研究・2021準備	80,000	29,544	50,456	
研究発表大会支出計	680,000	874,379	△194,379	
技術戦略研究発表大会支出				
技術・大会経費	150,000	16,790	133,210	
技術・委員会費	80,000	1,195	78,805	
技術戦略研究発表大会支出計	230,000	17,985	212,015	
企業交流会支出				
企交・経費	100,000		100,000	
企業交流会支出計	100,000		100,000	
経営講演会支出				
経営・経費	100,000	52,911	47,089	
経営講演会支出計	100,000	52,911	47,089	
教育特別講座開催支出				
教育・講師費	150,000	40,000	110,000	
教育・教材保守	115,000	64,972	50,028	
教育特別講座開催支出計	265,000	104,972	160,028	
新規開発プロジェクト支出				
新規プロジェクト費	80,000		80,000	
資格認定経費	80,000		80,000	
新規開発プロジェクト支出計	160,000		160,000	
事業部会費支出				
事業部会費	80,000	1,584	78,416	
事業部会費支出計	80,000	1,584	78,416	
審査表彰支出				
その他審査表彰費	130,000		130,000	
審査表彰部会費	150,000	101,108	48,892	

(0001)　一般会計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
審査表彰支出計	280,000	101,108	178,892	
Visionプロジェクト支出	40,000		40,000	
企業者及委員会支出	80,000		80,000	
研究会連携委員会支出	80,000		80,000	
学校教育委員会支出	80,000		80,000	
創水育プロジェクト支出	40,000		40,000	
技術向上委員会支出	80,000	37,950	42,050	
事業費支出計	8,125,000	6,782,537	1,342,463	
②管理費支出				
広報支出				
宣伝活動費	400,000	407,490	△7,490	
公式WEB維費	200,000	141,306	58,694	
広報部会費	120,000		120,000	
広報支出計	720,000	548,796	171,204	
記念品支出				
貢献賞記念品費	100,000	146,751	△46,751	
会長委員長賞費	50,000	47,190	2,810	
記念品支出計	150,000	193,941	△43,941	
総務支出				
労務費	5,000,000	5,354,583	△354,583	
事務費	800,000	882,408	△82,408	
印刷・通信	1,000,000	1,170,825	△170,825	
総務部会費	250,000	149,304	100,696	
会計・税理士	1,100,000	1,105,500	△5,500	
事務所賃借料	3,250,000	3,250,000		
総務支出計	11,400,000	11,912,620	△512,620	
システムメンテナンス支出				
WEBメンテ費	1,000,000	1,606,220	△606,220	
下請指導費	70,000	27,600	42,400	
システムメンテナンス支出計	1,070,000	1,633,820	△563,820	
管理費支出計	13,340,000	14,289,177	△949,177	
事業活動支出計	21,465,000	21,071,714	393,286	
事業活動収支差額	△236,700	486,775	△723,475	
Ⅱ投資活動収支の部				
1投資活動収入				
①特定資産取崩収入	900,000	147,301	752,699	
貢献賞積立引当取崩収入	200,000	146,751	53,249	
学会活動積立引当取崩収入	500,000		500,000	
周年記念積立引当取崩収入	200,000	550	199,450	
投資活動収入計	900,000	147,301	752,699	

(0001)　一般会計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
2投資活動支出				
①特定資産取得支出	50,000	170,110	△120,110	
貢献賞積立金積立支出	50,000	170,010	△120,010	
周年記念積立金積立支出		100	△100	
②固定資産取得支出	250,000	517,835	△267,835	
組織基盤支出	250,000	517,835	△267,835	
投資活動支出計	300,000	687,945	△387,945	
投資活動収支差額	600,000	△540,644	1,140,644	
Ⅲ財務活動収支の部				
1財務活動収入				
財務活動収入計	0	6	0	
2財務活動支出				
①その他財務活動支出	75,000	70,036	4,964	
雑損失	5,000	36	4,964	
法人税等	70,000	70,000		
財務活動支出計	75,000	70,036	4,964	
財務活動収支差額	375,000	△70,036	74,964	
Ⅳ予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	288,300	△123,905	412,205	
前期繰越収支差額	7,961,692	7,961,692	0	
次期繰越収支差額	8,249,992	7,837,787	412,205	

2.1.貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書総合計

2.1.3. 学生賞特別会計

一般社団法人品質工学会
(0003)　学生賞特別会計

貸借対照表

令和　4年　3月　31日　現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ資産の部			
1流動資産			
現金・預金	31,641	32,075	△434
流動資産合計	31,641	32,075	△434
2固定資産			
(1)その他固定資産			
学生賞積立引当預金	671,895	694,317	△22,422
その他固定資産合計	671,895	694,317	△22,422
固定資産合計	671,895	694,317	△22,422
資産合計	703,536	726,392	△22,856
Ⅱ負債の部			
1固定負債			
学生賞基金引当金	671,895	694,317	△22,422
固定負債合計	671,895	694,317	△22,422
負債合計	671,895	694,317	△22,422
Ⅲ正味財産の部			
1一般正味財産	31,641	32,075	△434
正味財産合計	31,641	32,075	△434
負債及び正味財産合計	703,536	726,392	△22,856

一般社団法人品質工学会
(0003) 学生賞特別会計

正味財産増減計算書

令和　3年　4月　1日から　令和　4年　3月　31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	22,428	98,758	△76,330
受取利息	6	8	△2
学生賞積立引当金取崩額	22,422	98,750	△76,328
経常収益計	22,428	98,758	△76,330
(2) 経常費用			
1. 事業費			
事業経費	22,422	68,750	△46,328
審査表彰			
学生賞審査経費	22,422		22,422
審査表彰計	22,422		22,422
学生賞審査経費		68,750	△68,750
事業費合計	22,422	68,750	△46,328
2. 管理費			
① 管理費			
総務			
事務費	440	440	
総務計	440	440	
管理費計	440	440	0
管理費合計	440	440	0
経常費用計	22,862	69,190	△46,328
評価損益等調整前当期経常増減額	△434	29,568	△30,002
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△434	29,568	△30,002
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△434	29,568	△30,002
当期一般正味財産増減額	△434	29,568	△30,002
一般正味財産期首残高	32,075	2,507	29,568
一般正味財産期末残高	31,641	32,075	△434
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
特定正味財産期末残高	0	0	0

(0003) 学生賞特別会計

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅱ 正味財産期末残高	31,641	32,075	△434

一般社団法人品質工学会
(0003) 学生賞特別会計

収支計算書

令和　3年　4月　1日から　令和　4年　3月　31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 雑収入	0	6	6	
受取利息収入		6	6	
事業活動収入計	0	6	6	
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	70,000	22,422	47,578	
審査表彰支出				
学生賞審査経費	70,000	22,422	47,578	
審査表彰支出計	70,000	22,422	47,578	
事業費支出計	70,000	22,422	47,578	
② 管理費支出				
総務支出				
事務費		440	△440	
総務支出計		440	△440	
管理費支出計	0	440	△440	
事業活動支出計	70,000	22,862	47,138	
事業活動収支差額	70,000	22,856	47,144	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	70,000	22,422	47,578	
学生賞引当預金取崩収入	70,000	22,422	47,578	
投資活動収入計	70,000	22,422	47,578	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	70,000	22,422	47,578	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	0	△434	434	
前期繰越収支差額	32,075	32,075	0	
次期繰越収支差額	32,075	31,641	434	

2.1.貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書総合計

2.1.4. 地震予知 MT システム研究特別会計

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

貸借対照表

令和 4年 3月 31日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	27,016	27,564	△548
流動資産合計	27,016	27,564	△548
2 固定資産			
(1) その他固定資産			
地震予知積立引当預金	302,946	302,946	
その他固定資産合計	302,946	302,946	0
固定資産合計	302,946	302,946	0
資産合計	329,962	330,510	△548
II 負債の部			
1 固定負債			
地震予知基金引当金	302,946	302,946	
固定負債合計	302,946	302,946	0
負債合計	302,946	302,946	0
III 正味財産の部			
1 一般正味財産	27,016	27,564	△548
正味財産合計	27,016	27,564	△548
負債及び正味財産合計	329,962	330,510	△548

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	2	2	0
受取利息	2	2	
経常収益計	2	2	0
(2) 経常費用			
1. 管理費			
① 管理費			
総務			
事務費	550	550	
総務計	550	550	
管理費計	550	550	0
管理費合計	550	550	0
経常費用計	550	550	0
評価損益等調整前当期経常増減額	△548	△548	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△548	△548	0
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△548	△548	0
当期一般正味財産増減額	△548	△548	0
一般正味財産期首残高	27,564	28,112	△548
一般正味財産期末残高	27,016	27,564	△548
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	27,016	27,564	△548

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

収支計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	未異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 雑収入	0	2	2	
受取利息収入		2	2	
事業活動収入計	0	2	2	
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	40,000	0	40,000	
地震予知委員会支出	40,000		40,000	
事業費支出計	40,000	0	40,000	
② 管理費支出				
総務支出				
事務費		550	△550	
総務支出計		550	△550	
管理費支出計	0	550	△550	
事業活動支出計	40,000	550	39,450	
事業活動収支差額	△40,000	△548	△39,452	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	30,000	0	30,000	
地震予知引当預金取崩収入	30,000		30,000	
投資活動収入計	30,000	0	30,000	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	30,000	0	30,000	
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	△10,000	△548	△9,452	
前期繰越収支差額	27,561	27,564	0	
次期繰越収支差額	17,561	27,016	△9,452	

2.1.貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書総合計

2.1.5. 田口賞特別会計

一般社団法人品質工学会
(0002) 田口賞特別会計

貸借対照表

令和 4年 3月 31日 現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	481,712	482,190	△478
流動資産合計	481,712	482,190	△478
2 固定資産			
(1) その他固定資産			
田口賞積立引当預金	4,350,000	4,350,000	
その他固定資産合計	4,350,000	4,350,000	0
固定資産合計	4,350,000	4,350,000	0
資産合計	4,831,712	4,832,190	△478
Ⅱ 負債の部			
1 固定負債			
田口賞基金引当金	4,350,000	4,350,000	
固定負債合計	4,350,000	4,350,000	0
負債合計	4,350,000	4,350,000	0
Ⅲ 正味財産の部			
1 一般正味財産	481,712	482,190	△478
正味財産合計	481,712	482,190	△478
負債及び正味財産合計	4,831,712	4,832,190	△478

一般社団法人品質工学会
(0002) 田口賞特別会計

正味財産増減計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	48	48	0
受取利息	48	48	
経常収益計	48	48	0
(2) 経常費用			
1. 管理費			
① 管理費			
総務			
事務費	520	520	
総務計	520	520	
管理費計	520	520	0
管理費合計	520	520	0
経常費用計	520	520	0
評価損益等調整前当期経常増減額	△472	△472	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△472	△472	0
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△472	△472	0
租税公課	6	6	0
当期一般正味財産増減額	△478	△478	0
一般正味財産期首残高	482,190	482,668	△478
一般正味財産期末残高	481,712	482,190	△478
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	481,712	482,190	△478

一般社団法人品質工学会
(0002) 田口賞特別会計

収支計算書

令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 雑収入	0	48	△48	
受取利息収入		48	△48	
事業活動収入計	0	48	△48	
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	150,000	0	150,000	
審査表彰支出				
田口賞審査経費	150,000		150,000	
審査表彰支出計	150,000		150,000	
事業費支出計	150,000	0	150,000	
② 管理費支出				
総務支出				
事務費		520	△520	
総務支出計		520	△520	
管理費支出計	0	520	△520	
事業活動支出計	150,000	520	149,480	
事業活動収支差額	△150,000	△472	△149,528	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	150,000	0	150,000	
田口賞引当預金取崩収入	150,000		150,000	
投資活動収入計	150,000	0	150,000	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	150,000	0	150,000	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
① その他財務活動支出	0	6	△6	
租税公課		6	△6	
財務活動支出計	0	6	△6	
財務活動収支差額	0	△6	6	
Ⅳ 予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	0	△478	478	
前期繰越収支差額	482,190	482,190	0	
次期繰越収支差額	482,190	481,712	478	

2.2. 収益事業損益計算書

一般社団法人 品質工学会
令和4年3月31日

収益事業損益計算書(消費税込)

(支出の部:事業費)

※一般会計は収益事業と公益事業があるため共通に係る事業費を按分する
①会誌作成費は掲載広告ページに係る原価、及び、非会員定期郵送の原価で配賦する
②予稿集(論文)はPDFを印刷して実施の為、原価なし
③講座講師費は会員・非会員の人数割合で配賦する(1人/10人)

(税込)

事業費支出		一般会計勘定	公益事業	収益事業		科目合計
事業費支出	学会誌作成費	4,716,509	4,114,580	601,929	①	4,716,509
	学会誌作成予備	240,820	240,820	0	①掲載広告ページ分	240,820
	学会誌発送費	592,342	592,342			592,342
	出版部消費	41,977	41,977			41,977
	研究・会場費	405,844	405,844			405,844
	研究・論文料金	373,964	373,964	0	②	373,964
	研究・大会経費	158,410	158,410			158,410
	研究・講師謝金費	0	0			0
	研究・委員会費	6,923	6,923			6,923
	研究・2021年度	29,544	29,544			29,544
	技術・会議費	0	0			0
	技術・賞(印刷)	0	0	0	②	0
	技術・大会経費	16,790	16,790			16,790
	技術・講師謝金	0	0			0
	技術・委員会費	1,195	1,195			1,195
	企画部消耗費	0	0			0
	標準講座教育費	52,911	52,911			52,911
	特別講座講師費	40,000	36,000	4,000	1/10	40,000
	教育・教材作成	64,972	64,972			64,972
	事業部会費	1,564	1,564			1,564
	事業推進費消費	101,106	101,106			101,106
	情報技術部消費	37,950	37,950			37,950
事業支出合計		6,782,537	6,176,608	605,929	③	6,782,537

(支出の部:管理費)

※一般会計は収益事業と公益事業があるため共通に係る管理費を
①収益事業収入/経常事業収入の割合で配賦する
423,600 / 21,558,489 = 1.96%
②税理士報酬は申告料の為、100%収益事業経費とする

(税込)

管理費支出・特定資産支出		一般会計勘定	公益事業	収益事業	収益事業割合(%)	科目合計
管理費支出	宣伝活動費	407,496	399,504	7,992	1.96	407,496
	公式WEB経費	141,906	138,537	2,769	1.95	141,306
	賛助会員会費	146,751	146,751	0	0.00	146,751
	広報出版活動	47,196	47,196	0	0.00	47,196
	人件費	5,554,953	5,449,653	104,940	1.89	5,554,953
	事務費	882,406	865,111	17,295	1.96	882,406
	印刷・通信	1,170,925	1,147,977	22,948	1.96	1,170,925
	総務部会費	149,304	149,304	0	0.00	149,304
	会計・記帳	395,500	375,989	19,511	1.93	395,500
	税理士報酬	110,000	0	110,000	100.00	110,000
	事務所管理料	3,060,000	2,941,200	58,800	1.92	3,000,000
	WEBメンテ費	1,606,228	1,574,739	31,489	1.96	1,606,228
	IT設備費	27,600	27,060	540	1.96	27,600
管理費支出合計		14,054,177	13,662,896	376,278	②	14,039,177
特定資産取得支出	事業委託開発A	170,010	170,010	0	0.00	170,010
	電子会員システム	100	100	0	0.00	100
特定資産取得支出合計		170,110	170,110	0		170,110

	電税会費	30	30	0	0.00	30
	都市計画事業税	517,835	517,835	0	0.00	517,835
	五輪法人税住民税	354,166	354,166	0	0.00	354,166
	法人税等	70,000	0	70,000	100.00	70,000
経費外費用等合計		942,037	872,037	70,000		942,037

費用合計	21,553,861	21,181,653	752,208	21,933,861

収益事業の事業費と管理費の合計 682,208 ⑤=③+④

収益事業の収入合計	423,600 ⑥
収益事業の費用合計	682,208 ⑤
税引き前利益	-258,608 ⑥-⑤
法人税等	70,000
収益事業の当期一般正味財産増減額	-328,608
収益事業の一般正味財産期首残高	-1,174,167
収益事業の一般正味財産期末残高	-1,502,775 前期からの繰越分+増減

一般社団法人 品質工学会
令和4年3月31日

収益事業損益計算書(消費税込)

(収入の部)

※一般会計は収益事業と公益事業があるため共通に係る経常収入を按分する
①掲載広告料は100%収益事業とする
②③当期物収入・予稿集購読料は非会員購入分とする
④特別講座参加費収入は非会員参加費収入分とする

事業収益		一般会計勘定	公益事業	収益事業		科目合計
経常収益	入会金	114,000	111,000			114,000
	年会費会費	10,842,000	10,842,000			10,842,000
	学生会員会費	16,500	16,500			16,500
	賛助会員会費	3,750,000	3,750,000			3,750,000
	掲載広告料	324,000	0	324,000	①全額	324,000
	出版物収入	472,175	454,175	18,000	②	472,175
	研究・会場費	3,352,350	3,352,350			3,352,350
	研究・論文料金	0	0			0
	予稿集購読料	257,600	196,000	61,600	③	257,600
	技術・会場費	700,000	700,000			700,000
	技術・懇親会費	0	0			0
	企画部会費収入	606,000	606,000			606,000
	標準講座参加費	328,000	328,000			328,000
	特別講座参加費	110,000	90,000	20,000	④1名×20,000	110,000
	教育教材作成収入	5,000	5,000			5,000
	事業推進費収入	170,400	170,400			170,400
	一般賛助金収入	60,000	60,000			60,000
	情報技術部収入	170,000	170,000			170,000
	受取利息	264	264			264
	雑収入	80,000	80,000			80,000
経常収益計		21,358,489	21,134,889	423,600		21,558,489

特定資産受取利息	退職給付引当資産	146,751	146,751			146,751
	減価償却資産	0	0			0
	特定資産受取利息	550	550			550
特定資産受取利息計		147,301	147,301	0		147,301

事業収益計	21,505,790	21,282,190	423,600		21,705,790

収益事業の収入合計 423,600 ④

3. 監査報告書

監査報告書

一般社団法人 品質工学会
代表理事　椿 広計　殿

2022 年 6 月 16 日

一般社団法人 品質工学会

監事　村戸文夫

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 2021 年度における会計および業務の監査を行い，次のとおり報告する。

1．監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について，理事会に出席し，理事からの業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2．監査意見

(3)　収支計算書，正味財産増減計算書，貸借対照表および財産目録は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収入および財産の状況を正しく示していると認める。

(4)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(5)　理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

[審議] 第 3 号議案

役員(理事・監事)の改選

定款第 22 条（役員の設置）第 1 項，第 23 条（役員の選任）第 1 項に基づき，法人第 4 期の業務執行理事・監事を以下のとおり提案させていただきます。

法人第 4 期(2022~2024 年度) 役員

(敬称略、五十音順、所属は 2021 年度末時点)

再任

理事 (24 名)

上杉 一夫	上杉技研
衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
太田 勝之	(株)シマノ
大村 欽也	キヤノン(株)
救仁郷 誠	
芝野 広志	
須江 雅彦	滋賀大学
田口 伸	American Supplier Inst. Inc.
武重 伸秀	マツダ(株)
田村 希志臣	コニカミノルタ(株)
近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
千葉 亨	HOYA(株)
椿 広計	統計数理研究所
永田 靖	早稲田大学
楢原 弘之	九州工業大学
浜田 和孝	Hamada Quality Solution
藤本 隆宏	早稲田大学
細川 哲夫	(株)リコー
宮川 雅巳	東京工業大学
矢野 耕也	日本大学
山戸田 武史	(株)IDAJ
山本 桂一郎	富山高等専門学校
吉澤 正孝	クオリティ・ディープ・スマーツ(責)
吉原 均	キヤノン(株)

新任

理事 (3 名)

奥 展威	日本規格協会ソリューションズ(株)
大塚 宏明	マツダ(株)
島田 尚徳	(一財)日本科学技術連盟

監事 (2 名)

笠 俊司	(株)ＩＨＩ物流産業システム
庄司 亨	EEJA 株式会社

退任

理事 (2 名)

吉川 勝也	(一財)日本規格協会
水谷 淳之介	富山高等専門学校

監事 (2 名)

折戸 文夫	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構
久米原 宏之	地域産学官連携ものづくり研究機構

(参考) 副理事の選任について

副理事とは、定款 22 条第 1 項に定める法人法上の業務執行理事の職務を補佐する役職です。任期の満了に伴い、新たに副理事を任命いたします。

但し、下記副理事規程にありますよう、その任命は会長の専権事項でありますことから、法人第 4 期の会長選出後に正式任命した時点で、会告にてお知らせいたします。

副理事規程 (抜粋)

(職務)

第 2 条 本学会に副理事若干名を置く。副理事は、会長(代表理事)の命を受け、理事の職務を補佐することをその任務とする。

(任命)

第 3 条 副理事は、正会員のうちから、理事の意見を参考に、会長が任命する。

(任期)

第 4 条 副理事の任期は、原則 2 年とする。

2. 副理事の任期の末日は、当該副理事を任命した会長の任期の末日とする。
3. 任期の途中で副理事の交替があった場合，後任の副理事の任期は，前任者の残任期間とする。
4. 副理事は、再任を妨げない。

参考 2020～2021 年度 副理事 (敬称略、五十音順)

安藤 力	富士ﾌｲﾙﾑﾋﾞｼﾞﾈｽｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ(株)	佐々木 康夫	(株)リコー
安藤 欣隆	ｴｽｹｰ石鹸(株)	沢田 龍作	サワダ技研(株)
糸久 正人	法政大学	塩沢 潤一	クオリティクリエイト(株)
大越 問	ライオン(株)	高辻 英之	広島県庁
大塚 宏明	マツダ(株)	高松 喜久雄	(株)ＩＨＩ
河田 直樹	埼玉工業大学	武澤 泰則	(株)松浦機械製作所
熊谷 保昭		畠山 鎮	ＹＫＫ(株)
熊坂 治	熊坂技術士事務所	満嶋 弘二	ＫＹＢ(株)
近藤 芳昭	コニカミノルタ(株)	吉野 荘平	(株)ときそう
坂本 雅基	花王(株)		

参考　2022 年度 副理事 (予定)　　(敬称略、五十音順 ☆: 新任)

安藤 力	富士ﾌｲﾙﾑﾋﾞｼﾞﾈｽｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ(株)	塩沢 潤一	ｸｵﾘﾃｨｸﾘｴｲﾄ(株)
安藤 欣隆	ｴｽｹｰ石鹸(株)	高辻 英之	広島県庁
☆伊勢 大成	福井工業高等専門学校	☆高橋 和仁	神奈川県立産業技術総合研究所
糸久 正人	法政大学	高松 喜久雄	(株)IHI
大越 問	ライオン(株)	武澤 泰則	(株)松浦機械製作所
河田 直樹	埼玉工業大学	☆鐵見 太郎	三菱電機(株)
熊谷 保昭		畠山 鎮	YKK(株)
熊坂 治	熊坂技術士事務所	☆舟山 博人	(有)ｱｲﾃｯｸｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ
近藤 芳昭	コニカミノルタ(株)	☆細井 光夫	(株)小松製作所
坂本 雅基	花王(株)	吉野 荘平	(株)ときそう
佐々木 康夫	(株)リコー		

[報告] (1)

2022 年度 事業計画案

目次

2022 年度 事業計画 (概要) 3
0.1. 2022 年度活動について 3
0.2. 役員、執行体制および会議等 4
0.2.1. 法人第 4 期(2022～23)役員 4
0.2.2. 執行組織体制 4
0.2.3. 会議体 5
0.3. 主要な活動 5
0.3.1. 会長直轄組織 5
0.3.2. 運営統括部 5
0.3.3. 組織統括部 6
0.3.4. 技術統括部 6
2022 年度 事業計画 (詳細) 8
1. 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成 8
1.1. 田口の考え方の収集・整理 8
1.2. 研究会との連携強化 8
1.3. 品質工学の体系化 9
1.4. 品質工学新領域開拓 9
1.5. 品質工学手法研究 9
1.6. 田口の考え方の構造化研究 9
2. 品質工学の普及、およびその奨励、助成 10
2.1. 資格制度の制定 10
2.2. 品質工学教育特別講座の開催 10
2.3. 解析支援ツールの提供 10
2.4. 広報活動の強化 10
3. 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰 11
3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞 11
3.2. 品質工学会 ASI 賞 11

3.3. 日本規格協会 理事長賞 11
3.4. 学生賞 11
3.5. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 11
3.6. 品質工学研究発表大会 会長賞 11
3.7. 品質工学研究発表大会実行委員長賞 11
3.8. 田口賞 11
3.9. 貢献賞 11
3.10. 表彰体系および基準の見直し 11
4. 学会誌その他の刊行物の発行 12
4.1. 学会誌「品質工学」の発行 12
4.2. 同誌掲載論文のレビュー 12
4.3. 同誌の編集改善と投稿数の増加施策 12
5. 研究発表大会、研究集会等の開催 12
5.1. 品質工学研究発表大会 12
5.2. ICRQE2021 13
5.3. 品質工学技術戦略発表大会 13
5.4. 企業交流会 13
5.6. 学校交流会 13
6. 品質工学情報の収集、提供 14
6.1. 論文電子公開(J-Stage) 14
6.2. 事例データベースの作成・公開 14
引き続き、品質工学研究発表大会で発表された事例のデータベースを充実させ、抜粋版を一般公開、詳細版を会員限定で公開すべく活動中です。 14
6.3. 品質工学関連図書および文献の収集・・・田口玄一博士の著書を主に 14
7. 内外の関係団体との連絡および提携 14
7.1. 日本規格協会 14
7.2. 日本品質管理学会 14
7.3. 農林水産省 14
7.4. 日本科学技術連盟 14
7.5. 横幹連合 14
7.6. 産業技術総合研究所との技術交流 14
7.7. JAXA 15
8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業 15
8.1. 会議体運営 15
8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など) 15
8.3. 代議員選挙 15
8.4. 貢献賞 15
8.5. 規程整備 15

2022 年度 事業計画 (概要)

0.1. 2022 年度活動について

今年度は、学会創立 30 周年にあたり、昨年度に予定を完了しました Vision30 活動の結果を受け、次の 5 年、さらに将来に向けて活動を開始する年です。ただ、大会第 1 日の劈頭に講演がありましたように Vision30 活動は精緻にして広範囲な内容であり、それらから得られた貴重な事柄を次に生かすためにはそれだけの議論が必要かと認識しております。

表　Vision30 活動項目および結果 (抜粋要約)

長期活動項目			具体項目/対象	結果
1) 自己実現と社会的認知	①教育・育成の機会の提供	解析ソフトの提供	パラメータ設計解析、MT法解析	会員に無償提供
		学びの場の設置	パラメータ設計、MT法、解析ツールのセミナー	会員および一般向けに有料開講
		普及機会	企業向けテキスト製作	未提供
	②研究・開発の場の設定	外部組織と連携	(一財)日本規格協会	理事長賞の創設
			(一財)日本品質管理学会	商品化プロセス研究会発足→発表
			農林水産省	未着手
			JAXA	JAXA内標準制定
			産業技術開発研究センター	共同活動
			(一社)企業研究会	機関紙連載、講演
			消費者庁	事故調査に参画→報告書公開
		会員相互研究の場の設置	次世代経営研究会発足(2020)	4半期ごと開催
	③自己実現レベルの認知	資格制度の制定	品質工学エンジニア認定制度創設(2019)	資格認定累計4名
	④情報の提供	ウェブ・インターネットによる情報公開	学会HP	お知らせの充実、更新のスピードアップ
			J-Stage	論文公開
	⑤知の構造化	田口の考え方の構造化	田口の論説・著書を調査&整理 ⇒ 5要素について執筆企画	学会誌に調査結果を報告 5要素については順次執筆中
		各種事例集	ベストプラクティス集作成	2023年度から漸次出版
			マネジメントのための出版	未完
			専門領域に対する事例集	未完(ベストプラクティス集を優先)
		テキスト化	ネットを通じた標準テキスト	環境整備&調査中
2) 新しい品質工学の考え手法の開発	⑥開発工程別品質工学の開発	品質工学の体系化	研究発表大会予稿集のデータベース化	学会HPで公開予定(近日中)
		品質工学の新領域の開拓	商品開発プロセス	日本品質管理学会との共同研究
			宇宙航空領域(JAXA)	共同プロジェクトに参画→内部標準制定
			MBD、1D-CAE	企業交流会(2019)で発表
			DFSS	技術戦略大会(202)で発表
		品質工学手法研究	MTシステムの解析手法、損失関数、（エネルギー型）SN比、直交表	未着手
			CS-T法	商品化プロセス研究会で発表
		品質工学用語集	規格用語に関連用語を加え説明	学会HPで公開済(2021)
3) イノベーションへの貢献	⑦地域産業の‥	課題設定と活動設定	各研究会の横通しコミュニケーション促進	研究発表大会で研究会連携企画の開催
	⑧国レベルの‥	国レベルプロジェクトへ参加協力	農水省、JAXA、経産省、消費者庁	※上記「外部組織と連携」参照
4) 学会体制の充実	⑨学会員の増加	会員による勧誘の強化	学会コンテンツの充実、広報宣伝の拡大充実、外部との連携強化	残念ながら、減少傾向は鈍化の兆しがあるものの増加には至らず
	⑩事務局体制の整備	経営規模に応じた体制への移行	着実な業務遂行継続環境	業務継承と1名体制への移行完了
	⑪運営体制の強化	ITを使った会議交流の促進	リモート会議の環境および運用手順整備	全会議体のリモート化完了

そこで、今年度を「ポスト Vision30 としての中長期計画を議論構築する年」と定め、将来を見据えて当学会の目指すもの、そのために必要な実施項目について、あらためて議論検討しつつ活動していきます。

その基本的な考え方として、2022 年度大会での椿会長講演で示された以下のポイント、

◆ 「田口玄一が構想した品質工学的視点」と、「原理を欠いた社会課題解決が不完全なものになる

可能性」を社会に対してアピールすること。

- ◆ 品質工学会の社会責任として「現状提唱している方法が有効な社会課題すなわち品質工学の基本原理の適用範囲」と、「品質工学が用いている原理の使用上の注意（副作用）」を社会に発信可能とする学理の知を充実させること。
- ◆ 品質工学会が主唱する原理が国際社会に理解され、次の 10 年間に先端理工学分野、社会科学分野との協働の中で実装されるような知の統合活動を産官学で企図すること。

これらを念頭に、品質工学の有する「魅力的品質」を社会に認識させ、品質工学の「当たり前品質」を日本の理工学教育に定着させ、次世代品質工学の学理と適用の知を発展させることを目指し、中長期計画を議論構築と以下の 2022 年度の活動を並行して実施していきます。

0.2. 役員、執行体制および会議等

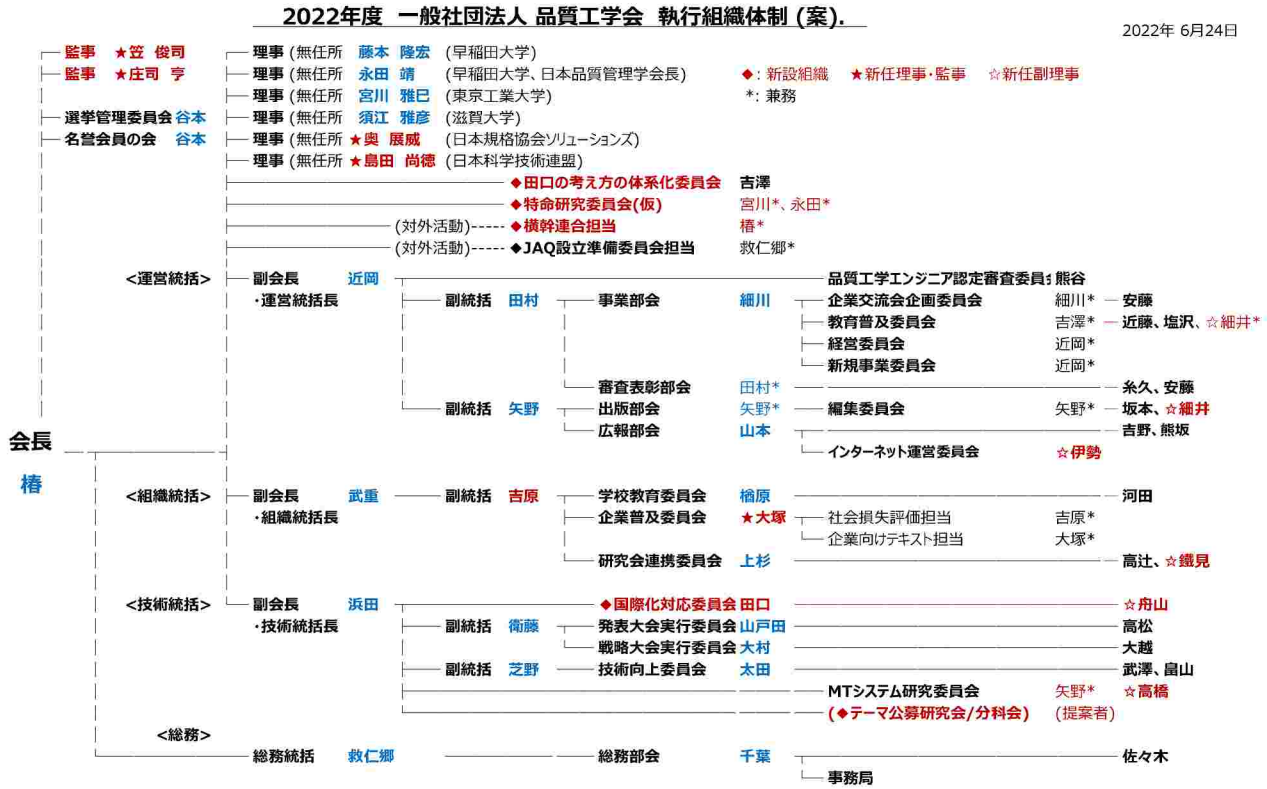
0.2.1. 法人第 4 期(2022～23)役員

理事　上杉 一夫、衛藤 洋仁、太田 勝之、大塚 宏明、大村 欽也、奥 展威、救仁郷 誠、芝野 広志、島田 尚徳、須江 雅彦、田口 伸、武重 伸秀、田村 希志臣、近岡 淳、千葉 亨、椿 広計、永田 靖、楢原 弘之、浜田 和孝、藤本 隆宏、細川 哲夫、宮川 雅巳、矢野 耕也、山戸田 武史、山本 桂一郎、吉澤 正孝、吉原 均 ・・・ 以上 計 27 名

副理事　安藤 力、安藤 欣隆、伊勢 大成、糸久 正人、大越 問、河田 直樹、熊谷 保昭、熊坂 治、近藤 芳昭、坂本 雅基、佐々木 康夫、塩沢 潤一、高辻 英之、高橋 和仁、高松 喜久雄、武澤 泰則、鐵見 太郎、畠山 鎮、舟山 博人、細井 光夫、吉野 荘平 ・・・ 以上 計 21 名※

監事　笠 俊司、庄司 亨 ・・・ 以上 計 2 名　(各々五十音順)

0.2.2. 執行組織体制



0.2.3. 会議体

1) **理事会**: 定款第 31～36 条に規定される「この法人の業務執行の決定機関」として、定例開催(9、12、3、6 月) します。また必要に応じて、臨時またはメール審議と臨機に開催します。
2) **部会長会議**: 学会運営の執行に関わる検討・論議、情報共有、調整および進捗管理のための会議体で、毎月(原則第 2 水曜)開催します。
3) **定時社員総会**: 2022 年 6 月 24 日(金) 、品質工学研究発表大会の第 2 日に開催を予定しています。
4) **中長期活動方針・計画検討会**: Vision30 活動の結果を受け、次の 5 年、さらに将来に向け、当学会の目指すもの、そのために必要な実施項目について、あらためて議論検討する場を設けます。

0.3. 主要な活動

0.3.1. 会長直轄組織

★田口の考え方の体系化委員会

Vision30 活動において進められていた「田口の考え方の構造化」を継続完遂するために、田口の論説・著書の調査&整理、5 要素について執筆活動を継続します。

★特命研究委員会(仮称)の設置

品質工学の数理・学理について探求し議論を深め、「品質工学の基本原理の適用範囲/使用上の注意」の知を充実させることを目的に、今年度あらたに設置し、活動を開始します。

★横幹連合への再加入

コトつくりコレクションに「品質工学」が選出されたことを受け、本年度あらためて加盟し、横幹連合会員団体との連携を進めます。

★JAQ(日本品質協議会)設立準備への参画

日本品質管理学会、日本科学技術連盟、日本規格協会、日本能率協会および品質工学会の品質関連 5 団体が集まり、昨今のデータ改ざん問題など、日本の品質問題についてオールジャパンで対応する組織を 2022 年度中に設立するべく活動します。

0.3.2. 運営統括部

従来から運営してきた企業交流会企画委員会、教育・普及委員会、新規事業委員会（商品開発プロセス研究会、ファブシステム研究会）、経営委員会（次世代経営研究会）、編集委員会、広報部会、審査表彰部会の定常活動は継続していきますが、会員に取ってさらに有意義な活動になることに留意して活動していきます。

なお、各部会で今年度特に強く留意して推進する活動を下記にまとめています。

・日本規格協会、日本品質管理学会、日本科学技術連盟、宇宙航空研究開発推進機構、産業技術総合研究所、公的機関の経済産業省、農林水産省等、関連する学会。機関との連携を強化していきます。それらの活動を強化することにより、品質工学の社会への発信をさらに広げていきます。

・**品質工学エンジニア認定制度**については、会員の認知度を高め、認定の応募者を増やす活動を強化いたします。

・広報活動の中で、**学会ホームページ**（HP）の活用をさらに充実させていきます。また、それに伴う運営体制の仕組みを整えます。会員増を図るとともに品質工学の魅力、品質工学会の活動を広く認知してもらうための広報事業について、効果のあるものとするための方策について委員会で議論を進めて活動していきます。品質工学会活動および品質工学の研究成果を世界に発信すること、また海外の情報を日本国内で共有化することを意識して英文対応もさらに充実させていきます。

・**投稿規程に**ついては、運用上の課題をさらに精査し、小規模の改定を進めていく予定です。**査読プロセス**についてなるべくシンプルになるように、査読用紙も含めて整備いたします。

・**田口賞**への応募促進のために、これまで審査表彰部会が全面的に担ってきた田口賞の候補選定活動の体制を拡大し、運営/組織/技術の 3 統括部が関わる形へと見直しを検討します。また、田口賞自己審査ツールの提供について引き続き検討します。

・過去の**論文賞授賞論文**および**発表賞授賞研究**を再評価し、レビュー集にまとめる活動に着手します。また、本レビュー集の出版を学会 35 周年記念事業の一つと位置づけ、会員への提供方法についても検討を開始します。

0.3.3. 組織統括部

昨年度同様、**研究会連携を強化**しつつ「**企業向けテキスト**」のレベルアップを図り、**企業普及**、**学校教育**の充実を図って参ります。加えて学校教育では、**学校交流会**の定着に向けた取り組みを実施して参ります。

更に新規の取り組みとして、品質工学が 1979 年以降取り組んできた**「社会損失低減」に向けた活動**を強化すべく、これまでの社会損失低減活動の振り返りをし、今後の活動テーマを設定した上で具体的な活動を開始して参ります。

0.3.4. 技術統括部

今年度も昨年度に引き続き、大会企画・運営と技術向上の諸活動を中心に活動していきます。また、品質工学の国際化を進めていくための活動にも着手します。

１．大会企画・運営

- 第 30 回品質工学研究発表大会（RQES2022S）6 月 23 日、24 日 昨年と同様に、全面オンライン開催とすることに決定し、統数研の施設を運営会場として実施します。
- 第 15 回品質工学技術戦略大会（RQES2022A）11 月 18 日星稜会館での開催を予定していますが、コロナ感染の状況を見てオンラインで実施します。

２．技術向上活動（技術向上委員会活動）

品質工学の**「体系化」、「新領域適用」、「手法研究」**の 3 領域について前年から継続中のテーマについて活動します。

- **「体系化」**については、事例データベースの作成と公開を進めます。
- **「新領域適用」**については、継続して、商品開発プロセス研究会の WG 活動に委員として参加します。また、技術問題を超えた社会課題に品質工学を適用することを意図した研究会活動に着手していきます。
- **「手法研究」**については、下記のテーマについて議論を行い、その成果を学会誌に投稿します。
  ① SN 比、MT システム、損失関数の数理
  ② 直交表の活用・応用
  ③ RQE の教育推進
  ④ 学会の活性化・会員増加活動

３．(新規) 国際化対応委員会（仮称）の設置と活動

昨年度は品質工学会主催で **ICRQE** を実施しましたが、海外の取組み状況を知る良い機会になりました。これを機会に世界における品質工学の取組み状況を把握して紹介するとともに、日本における取組みについて世界に積極的に情報発信していくことに取り組んで行きます。

４．(新規) テーマ公募研究会の制度化

品質工学の深化および発展とそれらの知見の共有促進を図るため、会員のみなさまの多様な課題認識に対し、学会として議論&研究の場を設けます。

今年度中に「テーマ公募制度」を整備し、公募開始を目指します。

2022 年度 事業計画 (詳細)

2022 年度に実施する活動内容を、下記の「当学会の目的を達成するための８つの活動項目」に沿って記述する。

1）品質工学の研究と調査、および奨励、助成
2）品質工学の普及、およびその奨励、助成
3）品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰
4）学会誌その他の刊行物の発行
5）研究発表大会、研究集会、講演会、展覧会、講習会、見学会などの開催
6）品質工学情報の収集、提供
7）内外関係団体との連絡会および提携
8）その他この法人の目的を達成するための必要な事業

1. 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

1.1. 田口の考え方の収集・整理

田口の考え方の構造化研究会（TQP 委員会）は、年度をあらためて継続活動をしていきます。選択した５編についての原稿作成活動を継続します。また原稿作成活動においての検討結果について、学会誌に適時報告をしていきます。

1.2. 研究会との連携強化

0）活動全体

2022 年度も、引き続き"**横通しのコミュニケーションによる地方連携の土台づくり**"をテーマに進め、横通しのコミュニケーションを更に活発化させていきます。

1) RQES2022S を活用したコミュニケーション強化

昨年度の反省を活かし、本年度も RQES2022S を活用して横通しのコミュニケーションを活発化していきます。

2) 学会活動の連携実施

昨年度に引き続き、**企業向けテキスト作成**などの学会活動を研究会と連携して進め、コミュニケーションを活発化していきます。

3) 地方研究会間のコミュニケーション活発化

他の研究会への参加の仕組みを検討するなど、地方研究会間のコミュニケーション活発化も図っていきます。

4）学会誌への研究会活動報告掲載の推進

これまで通り、継続して実施していきます。

1.3. 品質工学の体系化

・「**体系化**」については、事例データベースの作成と公開を進めるとともに、収益や会員増に繋がる活用方法の検討も合わせて行います。

1.4. 品質工学新領域開拓

商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っていきます。マイルストーンとして 2022 年度中に、各 WG の研究成果を盛り込み新商品開発プロセスの全体をつなげた推奨プロセスモデルをまとめ、第一次の研究報告書を作成する予定です。その研究報告を品質工学研究発表大会および日本品質管理学会年次大会発表会あるいはその他の団体と共同で発表会を企画し外部発信していく知の共有を図る予定です。品質工学研究発表大会（6 月開催）、日本品質管理学会年次大会発表会（11 月開催）にて本研究会の活動報告を発表する予定です。

・**WG 1** は商品開発最上流プロセスとしての新規事業を企画する際のプロセスや落とし穴など、社会的課題抽出の視点を基に進めていきます。特に“顧客（パートナー）との共創”をどのように実現していくかを今後の活動のフォーカスとして進めていきます。

・**WG 2** は 21 年度の取り組みを継続いたします。T7 の活用推進については、地方研究会での紹介を継続し、より内容をわかりやすく理解できるように改定すること、また普及拡大を目指して書籍の出版も検討を開始いたします（内容（案）：DFSS、T7、推進課題、方針管理によるマネジメント）。

方針管理による技術開発プロセスのマネジメントに関する研究については、リモート付箋ツール「miro」を利用して 21 年度からの Sub-WG2 活動を継続いたします．進め方の概要は以下となります。

1）「お客様の期待を超える製品を継続的に提供できている」をトップ事象にして、あるべき状態を抽出
2） あるべき状態を系統図にする
3） あるべき状態を計測するものさしとしての管理項目を上げる

・**WG3** は事業評価と意思決定に損失関数を適用している Real Option 理論を参考に、事業評価を経て意思決定すべき対象を整理し、新規市場への参入、モデルチェンジ、研究開発プロジェクトの継続あるいは中止、技術投入の保険、源流（技術開発）/上流（製品設計）でのロバスト性も加味した意思決定評価方法の研究とその支援ツールについて検討を継続します。特に損失関数を使った新規機能価値の分析手順の事例研究、製品開発プロセスのマルコフ決定過程に基づいた評価方法の研究を深めていく予定です。

1.5. 品質工学手法研究

・「手法研究」については、下記のテーマについて議論を行い、その成果を学会誌に投稿します。

①SN 比、MT システム、損失関数の数理
②直交表の活用・応用
③RQE の教育推進
④学会の活性化・会員増加活動

1.6. 田口の考え方の構造化研究

田口の考え方の構造化研究会（TQP 委員会）は、年度をあらためて継続活動をしていきます。選択した５編についての原稿作成活動を継続します。また原稿作成活動においての検討結果について、学会誌に適時報告をしていきます。

2. 品質工学の普及、およびその奨励、助成

2.1. 資格制度の制定

・品質工学エンジニア申請者の募集（～９/末）

申請者の応募は学会ホームページ、学会誌の会告で行い、さらに会員全員メールで周知します。

・申請者の審査(11/末)

品質工学エンジニア認定規程の認定基準に則り、委員が事前審査し、最終の認定審査はその結果を基に委員全員が集まり実施します。

・審査結果の理事会への報告（12 月の理事会） 認定審査結果を理事会に報告し、審査結果の承認を得ます。

・審査結果の連絡（翌年 1 月） 理事会での承認内容を申請者へ通知します。

・事務手続き：認定費用の請求（翌年 2/末）

・認定書類の作成：認定書、認定ｶｰﾄﾞの作成（翌年 3/末）

・認定会告の作成：学会誌、ホームページ会告の作成、掲載依頼

2.2. 品質工学教育特別講座の開催

・特別講座については Web 形式でパラメータ設計コースと MT コースを実施し、学会誌へ実施報告を掲載します。

・実施済みの計９回の特別講座全体に関する座談会を企画します。

・新規 Web 講座は入門者向けを想定し、普及 WG の解析支援ツール講座と連携を取り、企画します。

2.3. 解析支援ツールの提供

・2020 年度実施「パラメータ設計の基本と解析支援ツール講座」の改良版を 2022 年度中に実施します。

・2021 年度実施の「MT システムの基本と MT 法ツール講座」を 2022 年度も実施します。

・解析支援ツールの試用版を企画して、学会員以外に提供し会員獲得の一助にします。

・パラメータ設計解析支援ツール及び MT 法解析支援ツールの継続的なフォローします。

2.4. 広報活動の強化

・個人会員はもとより賛助会員の獲得を図るべく、学会ホームページのアクセス数の増加のため、学会誌と連携した情報発信を実施していきます。

・ホームページのコンテンツ充実のために、各部会と協力をしてページの見易さと情報の新しさに留意して、ステークホルダーとの関係を深化させていきます。

・広告募集、会員増を図るための広報事業について、効果のあるものとするための方策について委員会で議論を進めます。品質工学の魅力、品質工学会の活動を広く認知してもらうための方策について引き続き検討します。

・今後の広告事業に関して、広告代理店との協議を行います。広報部会の立場として個人会員、共助会員ならではの魅力を高める方策について委員会で検討を始めます。

・第 30 回品質工学研究発表大会の前後に 2 回、日刊工業新聞紙面で開催告知と結果報告を掲載することを検討します。広告企業の募集について新聞社と協議の上、誌面の拡大を目指します。また、学会ホームページに大会の情報を掲載します。

・第 15 回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を実施し参加者の確保に務めます。
・学会誌の季刊化に伴い、ホームページを通して提供する会員サービスをさらに充実したものにすべく、広報部会委員会での議論を継続します。
・総務部会、事業部会と連携して内容構成の拡充を進めていきます。
・情報発信の正確性と迅速性を高めるために、広報部会でのページ更新の役割分担を明確化し、掲載内容を編集できる体制を構築します。
・ホームページのページビュー数、訪問者数を前年度より増加させます。

3. 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞
3.2. 品質工学会 ASI 賞
3.3. 日本規格協会 理事長賞
3.4. 学生賞

・以上の各賞について審査し、授賞者を選定します。
・日本規格協会理事長賞、学生賞については賞の認知向上および魅力向上策について引き続き検討し、応募促進を図ります。

3.5. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞
3.6. 品質工学研究発表大会 会長賞
3.7. 品質工学研究発表大会実行委員長賞

・第 30 回品質工学研究発表大会における上記の各賞について審査し、授賞発表を選定します。

3.8. 田口賞

・これまで審査表彰部会が全面的に担ってきた田口賞の候補選定活動の体制を拡大し、運営/組織/技術の 3 統括部が関わる形へと見直しを検討します。
・応募促進策の一つとして、田口賞自己審査ツールの提供について引き続き検討します。

3.9. 貢献賞

2022 年度も例年通り貢献ポイントの累計を基に授賞を実施します。
貢献賞は学会創立時からの賞で 30 年目を迎えます。品質工学および品質工学会に対する貢献を称える本賞についても、そろそろ別の観点を取り入れてもよい時期かと思いますので、今年度は見直しの検討に着手します。

3.10. 表彰体系および基準の見直し

・・品質工学会の表彰体系の整理、大会発表賞の表彰審査基準の見直しについて引き続き検討します。

4. 学会誌その他の刊行物の発行

4.1. 学会誌「品質工学」の発行

原著論文については、平均で各号 3 報掲載を目指したく努めます。

・QE スクエアについて、毎号 1 報、可能であれば 2 報は平均して出せるようにしたく努めます。

・コロナ禍の影響で思うように進みませんが、会員の世代交代が進むので、田口玄一を知る人のインタビューや、タグチメソッドの明文化されていない部分について、解説等で明らかにできるよう努めます。

・論説記事の増加に努めたく思います。

・シミュレーション技術等、オンライン上での対談や、メール上での対談を活用し、多くの会員の意見を集めていきたいと考えております。

・30 周年記念号については、7 月下旬を入稿締め切りとして 10 月号掲載で検討をしております。

・年間 450P を目標に掲載を行いたいと考えております。

4.2. 同誌掲載論文のレビュー

・第 30 回品質工学研究発表大会の研究発表および 2022 年の学会誌掲載論文に対するレビュー記事を学会誌に掲載します。

・過去の論文賞授賞論文および発表賞授賞研究を再評価し、レビュー集にまとめる活動に着手します。また、本レビュー集の出版を学会 35 周年記念事業のひとつと位置づけ、会員への提供方法についても検討を開始します。

4.3. 同誌の編集改善と投稿数の増加施策

・投稿規程については、運用を進めていく上で不備が見つかることが予想されるので、見つかった機会を利用し、小規模の改定を進めたく考えております。

・査読プロセスについてなるべくシンプルになるように、査読用紙も含めて整備をする予定です。

・2021 年に引き続き、2022 年についても同様に優秀発表者に直接連絡して投稿を呼びかける予定です。

・編集委員の欠員(逝去者、辞退者)を埋めるべく、2 名以上を追加したく努めます。

5. 研究発表大会、研究集会等の開催

5.1. 品質工学研究発表大会

第 30 回品質工学研究発表大会（RQES2022S）は、2022 年 6 月 23 日、24 日に、完全オンラインで開催します。

・統計数理研究所を運営会場として実施します。

・研究会を含めた 58 件の発表を実施する予定です。

・実行委員特別企画として、「特別講演：Vision30 活動報告」および「品質工学会 30 周年記念講演：社会課題に応える品質工学の役割」を実施します。

5.2. ICRQE2021

今年度は活動予定なし。

なお、ICRQE を日本で開催する際は品質工学会が主催することを決定しており、次回（未定）の日本開催が決まった時点で、今回と同様な委員会を組織して企画・運営を行います。

5.3. 品質工学技術戦略発表大会

第 15 回品質工学技術戦略研究発表大会（RQES2022A）を 2022 年 11 月 18 日に、星陵會館ホール（千代田区永田町）で開催する予定です。

引き続き、IT との結合による品質工学の有効性を議論する予定です。現在、大会実行委員会を開催し、講演と発表のテーマアップをしています。なお、今年度も感染症の拡大状況を考慮し、完全リモート開催とするか、会場で開催とするか含めて準備を進めていきます。

5.4. 企業交流会

企業交流会の狙いは、品質工学を導入あるいは推進を加速したい企業への様々な情報を提供することです．ここ数年間で、その対象となる企業が激減しているため、これまでの形での企業交流会の開催が困難となっています．かつてのような品質工学への期待感がなくなったことが根本要因であり、この状況を踏まえた新たな方向性が必要と考えています．

このような状況で第 32 回企業交流会では、品質工学会が品質工学を導入していない企業から学ぶという新たな目的での開催といたしました．この方向性は品質工学会としてのメリットは大きいものでありますが、協力いただいた企業様のメリットは必ずしも明確ではありません．今回の未来工業様も品質工学に関心があるわけではなく、リコージャパンとの人脈から依頼を引き受けていただいたという経緯があります．このような特別なルートを前提としての継続開催も非現実的です．

今後は企業交流会の開催を目的化せずに、品質工学の魅力を向上し、それを発信することに注力していくことにいたします．その方向性としては、品質工学に関係が深い周辺分野を研究している学会・機関と連携して、様々な技法を組み合わせた新たな技法体系を構築し、品質工学会から発信していくことを検討いたします．

5.5. 次世代経営研究会

次世代経営研究会の活動を引き続き行っていきます。基調講演とパネルディスカッションを基本の構成とした定例会を 3 か月毎に開催いたします。また、日本企業の経営課題とその対応について、継続的に議論していく WG を 2022 年度上期中に設置し、活動を開始いたします。WG 活動は Web を活用し、頻繁に議論していく形式です。そこで抽出された課題、話題を定例会のプログラムに繋げていきます。

5.6. 学校交流会

昨年度同様に、2022 年度も「学校交流会」を開催し、優秀な発表を表彰します。

6. 品質工学情報の収集、提供

6.1. 論文電子公開(J-Stage)

J-Stage で公開中の学会誌「品質工学」掲載論文については、遅れている掲載&公開を計画通り(学会誌発行 1 年後)の状態にします。そのために、担当工数の増強を図ります。

6.2. 事例データベースの作成・公開

引き続き、品質工学研究発表大会で発表された事例のデータベースを充実させ、抜粋版を一般公開、詳細版を会員限定で公開すべく活動中です。

6.3. 品質工学関連図書および文献の収集・・・田口玄一博士の著書を主に

品質工学および関連の貴重な文献の散逸を防ぎ、会員の調査研究の用に供するため、文献資料収集事業を継続します。主に田口玄一博士の著作の寄贈を募り、学会事務所に「水道橋文庫」として収蔵と閲覧の便を図ります。

関連書籍・文献をご寄贈いただける方は、事務局までご連絡ください。

7. 内外の関係団体との連絡および提携

7.1. 日本規格協会

引き続き、「日本規格協会理事長賞」のスポンサーシップいただける関係を維持し、品質工学の研究・活用と教育・出版で連携を進めます。

7.2. 日本品質管理学会

★**「商品開発プロセス研究会」**: 商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っていきます。研究報告を 2021 年 6 月開催の品質工学研究発表大会に発表いたします。

★**「JAQ 設立準備委員会」**: 日本品質管理学会、日本科学技術連盟、日本規格協会、日本能率協会および品質工学会の品質関連 5 団体が集まり、昨今のデータ改ざん問題など、日本の品質問題についてオールジャパンで対応する組織を 2022 年度中に設立するべく活動します。

7.3. 農林水産省

農水省管轄のプロジェクト及び農研機構等との協力関係についての検討が一時中断していたが、あらためて農研機構でＡＩ活用による農業・食品分野の Society5.0 実現に向けた活動を実施している農業情報研究センターへの働きかけを開始した。

7.4. 日本科学技術連盟

本年度より理事会に参画いただくとともに、連携の検討を進めます。

7.5. 横幹連合

コトつくりコレクションに「品質工学」が選出されたことを受け、本年度あらためて加盟し、横幹連合会員団体との連携を進めます。

7.6. 産業技術総合研究所との技術交流

・国立研究開発法人産業技術総合研究所との技術交流を促進するために、その国家プロジェクトから発展した一般社団法人ミニマルファブ推進機構のファブシステム研究会を通して、産業技術総合研究所および半導体産業への啓蒙を引き続き促進していきます。

7.7. JAXA

JAXA 品質工学研究会への参画: JAXA の JIANT システムと品質工学のパラメータ設計の連携性の研究を継続します。

8. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

8.1. 会議体運営

総会: 発表大会が復活することで、そのリモート開催と連携して開催することとします。

理事会: 定例の年 4 回(6、9、12、3 月)の開催の他、必要に応じて、臨時招集またはメール審議として開催します。

部会長会議: 毎月 1 回計 12 回定例通りに開催します。

以上の他に、ポスト Vision30 にあたる創立 35 周年に向けてのビジョンや活動方針を検討する会議体を発足させます。

8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)

引き続く会員減少およびイベント参加者の減少による減収傾向のなか、コロナも 3 年目となり、世間全般の活動自粛が解消に向かいつつあることで、イベント類のリアル開催復活による経費増について慎重に予算管理を実施します。

但し、その中にあっても、将来の為、品質工学の発展と会員増加につながる活動を促し、計画外であっても積立金を取り崩して積極的に予算をつける方針としました。

8.3. 代議員選挙

本年度は法人第 5 期(2 年任期)の 1 年目であるため実施しません。

8.4. 貢献賞

「3.9 貢献賞」参照

8.5. 規程整備

引き続き、法人化以前に制定されたままとなっている暫定規程の改定を各々の主管部門に促すと共に、総務主管として未だ整備できていない倫理規程、理事監事選任規程、就業規程、文書管理規程等のうちいくつかについては制定作業に着手します。

[報告] (2)

2022 年度 予算案

- **予算策定方針と各科目の計上理由**
- **品質工学会 2022 年度予算案**(総合計)

※ 予算案「総合計」は、下記の予算をまとめて表記しております。

記

I. 一般会計

II. 特別会計

1) 学生賞特別会計

2) 地震予知 MT システム研究特別会計

3) 田口賞特別会計

方針と各科目の計上理由

1) 予算作成方針

2022 年度予算は、まだ先行きの不確かではありまが新型コロナウィルスによる世間全般の活動自粛から解消に向かいつつある状況を受け、研究発表大会等イベントのリモート開催と一部リアル開催を睨みつつ、また従来から続く減収傾向を勘案し、昨年に続いて**事業収支の赤字を「学会活動積立金」より補填することで、全体として収支均衡**させるよう策定しました。

コロナをきっかけに広まった感染対策やリモート利用は今後も続くものと思えますが、関係各位におかれまして、対策に考慮しつつも、過度に縮小することなく、会員内外の皆さんに関心をもっていただけるよう工夫しながら将来に向けた活動をお願いします。

以下、本予算案策定についての基本的な考え方を示します。

(1) 各収支科目については、**各部会、委員会の見込み・要求をベースに**、過去の実績と今年度の実施内容(リモートまたはリアル)等も勘案し、算定計上しております。
(2) 個々の事業活動、特に大会などのイベントにつきましては、リモート開催のメリットである**会場費・資料代等の節約**を見込んだ予算であります。
(3) **30 周年記念事業**である学会誌記念記事分の経費および過去受賞論文レビュー集制作経費につきましては、 周年記念積立から取崩してその原資としました。
(4) **田口賞、学生賞、地震予知 MT システム研究会の経費**についてはそれぞれの**特別会計**から費用を補填し、また**貢献賞作成費用**は会員の皆様からの寄付金を原資とする**貢献賞基金積立金**を取り崩して財源としています。
(5) **各部会・委員会ごとに自由に使える経費**を、一昨年、昨年度に比べますとごくわずかでありますが計上しました。些少ではありますが、部会/委員会の裁量で活動を広げるために活用ください。
(6) 以上のように事業活動収支は赤字予算ですが、その分につきましては**学会活動積立金を取崩し、総収支を均衡させた予算**です。

2) 各科目の計上理由

予算書の算定根拠欄を参照ください。

品質工学会 2022年度 予算案

2022/6/9

総務部会

Ⅰ 事業活動収支の部 (収入)

	勘定科目	2021 予算	2021 実績	2022予算案 予算案	2022予算案 算定根拠等
総務部会	入会金 収 入	84,000	114,000	**114,000**	正会員40名(引継ぎ除く),学生会員×4名
	【入会金 収 入】	**84,000**	**114,000**	**114,000**	
総務部会	正会員会費 収入	10,872,000	10,842,000	**10,132,000**	継続980・・・(うち海外21・・・名誉11)+新規40名
	学生会員会費収入	27,000	16,500	**27,000**	継続5+新規4名
	賛助会員会費収入	4,050,000	3,750,000	**4,200,000**	25団体 28口
	【年度会費 収入】	**14,949,000**	**14,608,500**	**14,359,000**	
出版部会	出版物収入	200,000	472,175	**450,000**	学会誌販売、版権料など 過去2年実績 並
	掲載広告料	750,000	324,000	**330,000**	前年実績 並
発表大会 実行委	研究・参加費	3,000,000	3,552,550	**3,250,000**	有料参加300名(?)
	研究・懇親会費	0		**0**	開催せず
	研究・予稿購読	30,000	257,600	**250,000**	購読25セット
戦略大会 実行委	技術・参加費	900,000	700,000	**700,000**	会員60名＋非会員5名
	技術・懇親会費	0		**210,000**	30名×7,000円
事業部会	企交・参加費	360,000	606,000	**450,000**	リアル50名×9,000円
	企交・懇親会費	0		**210,000**	30名×7,000円
	経営・講演会参加費	200,000	328,000	**240,000**	有料のべ30名×8,000円
	経営・講演会懇親会費	0		**0**	開催せず
	特別講座参加費	200,000	110,000	**150,000**	10人×3回(パラメータ設計、MT法、ツール)
事業統括部	資格制度申請登録料	25,000	5,000	**25,000**	申請12+登録6
	【事 業 収 入】	**5,665,000**	**6,355,325**	**6,265,000**	
総務部会	財団助成金収入	180,000	170,400	**170,000**	前年実績 並
	【受取補助金等収入】	**180,000**	**170,400**	**170,000**	
総務部会	一般寄付金	150,000	60,000	**50,000**	確実そうなところ
	賛献賞寄付金	50,000	170,000	**50,000**	例年実績 並
	【寄付金収入】	**200,000**	**230,000**	**100,000**	
総務部会	受取利息 収入	300	320	**300**	前年実績 並
	【受取利息 収入】	**300**	**320**	**300**	
	雑 収 入	150,000	80,000	**1,080,000**	前年実績 並 ＋ 事業復活支援金(100万円)
	【雑 収 入】	150,000	80,000	**1,080,000**	
	【事業活動収入計】	**21,228,300**	**21,558,545**	**22,088,300**	

Ⅰ 事業活動収支の部 (支出)

	勘定科目	2021 予算	2021 実績	2022予算案 予算案	2022予算案 算定根拠等
出版部会	学会誌作成費	4,800,000	4,716,509	**5,250,000**	4号(頁数同等)・・・前年並み+30周年記念号
	学会誌外注委託	350,000	240,820	**250,000**	2019～2021年並
	学会誌発送費	600,000	592,342	**600,000**	前年実績
	出版部会費	80,000	41,977	**40,000**	部会付き雑費
発表大会 実行委	研究・会場費	400,000	405,844	**0**	※統数研は無料
	研究・論文印刷	180,000	273,964	**250,000**	※電子化で印刷業者への支払い
	研究・大会経費	10,000	158,104	**100,000**	諸経費
	研究・懇親会費	0		**0**	※非開催
	研究・委員会費	10,000	6,923	**25,000**	委員会付き雑費
	国際化対応委員会(旧ICRQE)	80,000	29,544	**10,000**	新設
戦略大会 実行委	技術・会場費	0		**280,000**	※星稜會館でのリアル開催
	技術・資料印刷	0		**0**	※電子化のため不要
	技術・大会経費	150,000	16,790	**100,000**	諸経費
	技術・懇親会費	0		**210,000**	30名×7,000円
	技術・委員会費	80,000	1,195	**25,000**	委員会付き雑費
事業部会	企交・経費	100,000		**50,000**	リアル開催(資料、弁当、バス、旅費)
	企交・懇親会費	0		**210,000**	30名×7,000円
	経営講演会・会場費	0		**0**	※次世代経営研究会: 定例会4回すべてリモート開催、
	経営講演会・懇親会費	0		**0**	
	経営講演会・経費	100,000	52,911	**70,000**	
	教育・教材制作保守費	115,000	64,972	**100,000**	Web教育ツール、保守費、交通費、＊講座回数増
	教育・講師費	150,000	40,000	**60,000**	講師謝礼、＊講座回数増
	新規・商品開発プロジェクト費	80,000		**30,000**	弁当代10人×1回 (残り6回はJSQC負担)+資料作成費
	資格認定経費	80,000		**10,000**	審査12+登録6 (要求額)
	事業部会費	80,000	1,584	**25,000**	部会付き雑費
審査表彰部会	田口賞審査経費	150,000		**30,000**	記念品、交通費等、ツール作成費 ※ 田口賞特別会計より
	学生賞審査経費	70,000	22,422	**50,000**	記念品、交通費等 ※ 学生賞特別会計より
	その他審査経費	130,000		**30,000**	上記以外の審査経費
	審査表彰部会費	150,000	101,108	**150,000**	過去受賞論文レビュー集経費、部会付き雑費

企業普及委	企業普及委員会費	80,000		25,000	委員会付き雑費
研究会連携委	研究会連携委員会費	80,000		60,000	委員会付き雑費
学校教育委	学校教育委員会費	80,000		25,000	委員会付き雑費
技術向上委	MTシステム研究会支出	40,000		25,000	2018年実績 弱　※ MTシステム特別会計より
	農水省プロジェクト支出	40,000		25,000	今年度活動予定
	技術向上委員会費	80,000	37,950	50,000	テープ起こし
直轄	田口の考え方構造化委員会費	40,000		40,000	資料購入費 (要求額)
	特命研究委員会			40,000	委員会付き雑費
	【事業費 支 出】	8,345,000	6,804,959	8,245,000	
広報部会	宣伝活動費	400,000	407,490	410,000	一昨年実績(日刊工業新聞大会特集)+広告募集
	公式ＷＥＢ経費	200,000	141,306	100,000	会員サービスをさらに充実
	広報部会費	120,000		60,000	部会付き雑費＋α
総務部会	貢献賞記念品費	100,000	146,751	100,000	金×3、銀×5、銅×4、ケース×?＋額×?
	会長･実行委員長賞記念品費	50,000	47,190	50,000	前年実績並み
	労務費	5,000,000	5,354,583	5,400,000	派遣1名
	事務費	800,000	883,918	900,000	昨年実績 並
	印刷･通信費	1,000,000	1,170,825	1,200,000	昨年実績 並
	総務部会費	250,000	149,304	147,800	前年実績+α
	会計･税理	1,100,000	1,105,500	1,105,500	月締め＋決算＋税務
	事務所賃借料	3,250,000	3,250,000	3,000,000	12カ月
	会員ＤＢメンテ				
	ＷＥＢメンテ費	1,000,000	1,606,220	1,600,000	前年実績＋カード決済ページ運用
	IT設備費	70,000	27,600	25,000	ネット会議用設備
	【管理費 支 出】	13,340,000	14,290,687	14,098,300	
	【事業活動支出計】	21,685,000	21,095,646	22,343,300	
	(事業活動収支差額)	-456,700	462,899	-255,000	⇒

Ⅱ 投資活動収支の部

勘定科目	2021 予算	2021 実績	2022予算案 予算案	2022予算案 算定根拠等
貢献賞積立引当取崩収入	200,000	146,751	100,000	受賞記念の貢献賞メダル作成費に充当
学会活動積立金取崩収入	500,000		200,000	事業活動収支の補填
周年記念積立引当取崩収入	200,000	550	500,000	創立30周年事業の経費に充当
退職給与引当預金取崩収入				
田口賞引当預金取崩収入	150,000		30,000	田口賞審査経費に充当
学生賞引当預金取崩収入	70,000	22,422	70,000	学生賞審査経費に充当
地震予知引当預金取崩収入	30,000		30,000	地震予知委員会支出に充当
【特定資産取崩収入】	1,150,000	169,723	930,000	
差入敷金取崩収入				
【敷金･保証金戻り収入】	0	0	0	
【投資活動収入計】	1,150,000	169,723	930,000	
貢献賞積立金積立支出	50,000	170,010	50,000	貢献賞寄付金を積立
学会活動積立金積立支出				
周年記念積立金積立支出		100		
退職給与引当金支出				
田口賞積立金積立支出				
学生賞積立金積立支出				
地震予知積立金積立支出				
【特定資産取得支出】	50,000	170,110	50,000	
棚卸廃棄支出	250,000	517,835	250,000	
【固定資産取得支出】	250,000	517,835	250,000	
敷 金 支 出				
【敷金･保証金支出】	0	0	0	
【投資活動支出計】	300,000	687,945	300,000	
(投資活動収支差額)	850,000	-518,222	630,000	

Ⅲ 財務活動収支の部

勘定科目	2021 予算	2021 実績	2022予算案 予算案	2022予算案 算定根拠等
租税公課	5,000	42	5,000	印紙税等
法人税等	70,000	70,000	70,000	法人住民税 7万円、法人所得税 0円
【その他財務活動支出】	75,000	70,042	75,000	
【財務活動支出計】	75,000	70,042	75,000	
(財務活動収支差額)	-75,000	-70,042	-75,000	

Ⅳ 予備費支出

	2021		2022予算案	
勘定科目	予算	実績	予算案	算定根拠等
【予　備　費】	278,300	0	**300,000**	

当期 総収支	（当期 収支差額）	**40,000**	-125,365	**0**
	前期繰越収支差額	8,503,521	8,503,521	8,378,156
	（次期繰越収支差額）	**8,543,521**	**8,378,156**	**8,378,156**

以上

紹介

(1) 2022 年度支援会員の紹介

定款運用細則第 5 条に基づき、下記の 6 名(正会員)の皆様に「支援会員」の称号を授与し、学会への貢献を称えます。

支援会員 熊坂 治、 佐々木 市郎、 土屋 元彦、
原 和彦、 満嶋 弘二、 矢野 耕也 (敬称略、五十音順)

(参考) 定款運用細則 第 5 条

1. 1 年間に 1 口 1 万円、1 口以上の寄付を行った個人に、1 事業年度を限度に、支援会員の称号を授与する。
2. 支援会員の称号は、会員又は会員以外の者の善意に敬意を表するものであり、前条に定める会員の特典等は、支援会員はこれを有しない。

(2) 2021 年度品質工学会貢献賞受賞者の紹介

品質工学会では、品質工学の発展と学会の活動や行事に貢献していただいた会員に、その努力を称えて貢献賞を授与します。

2021 年度のポイントにより、新たに受賞されたみなさんは以下であります。(得点順、敬称略)

金賞:	楢原 弘之、 越水 重臣、 福本 康博	・・・ (3 名)
銀賞:	安藤 力、 岩永 禎之、 佐々木 康夫、熊坂 治、 五味 伸之	・・・ (5 名)
銅賞:	熊坂 治、 山村 英記、 福島 祥夫、 和田 友宏	・・・ (4 名)
入賞:	茂木 悠佑、 林 秀行、 小野 正幸、 棚橋 真種、 大内 宏伸、 中村 高士、 松下 誠、 大越 問、 春名 一志、 佐藤 幸太	・・・ (10 名)

※ 会員ご自身の貢献賞得点につきましては、学会ホームページ上で確認いただけます。下記をご参照ください。
品質工学会ホームページ 会員専用ページ ⇒ 事務手続き(事務局ページ) ⇒ 会員ログイン
⇒ 会員登録情報確認・変更 ⇒ 登録情報確認・変更(こちらの上段に記載)

貢献賞

この賞は、学会活動および学会外の品質工学に関する活動に対して貢献点を与えて、累積得点が 100 点に達したときに貢献賞入賞(賞状)、200 点に達したときに銅賞(銅メダル)、300 点に達したときに銀賞(銀メダル)、400 点に達したときに金賞(金メダル)が授与されるものです。会員の皆様は、おおいに頑張って得点の高い賞を狙ってください。 品質工学会貢献賞得点基準に基づく貢献得点は、下表の通りです。

貢献賞得点 配分表 (抜粋)

点数	項 目
1	学会誌校正 会員歴 貢献賞基金(1 ポイント/1000 円) 学会誌後書き アンケート協力
2	公認研究会会員 学会誌投稿(広場・会員紹介・会員の声) 学会誌査読、校正 会員推薦 論文アブストラクト英訳 アンケート協力 (詳細意見添付)
3	発表大会参加 代議員 認定研究会委員 学会誌投稿(視点・機能性評価・グループ紹介) 大会実務 大会司会
4	各部会実務 社内外で事例発表
5	論文賞・大会賞・ASI 賞審査担当 各部会委員

点数	項 目
5	大会発表 大会役割 会計監査 学会誌編集委員 大会遠隔地委員 大会当日実行委員
8	学会誌論文賞銀賞 大会発表賞銀賞 副会長
10	学会誌論文賞金賞 ASI 賞 大会発表賞金賞 日本規格協会理事長賞 本部役員 学会誌論文 大会講演 大会論文発表 大会実行委員長 大会実行委幹事 会長

【貢献賞特別基金】へのご協力のお願い

貢献賞は皆様からの寄付金による特別基金によって運用しております。

この特別基金は、個人 1 口 2、000 円、法人 1 口 10、000 円として寄付を募っており、何口でも受付いたします。また、個人会員に対する特典として、寄付 1 口を 2 点として貢献点に加算させていただきますので、主旨をご理解の上ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022 年 6 月 24 日

2022 年度 定時社員総会 資料

(総会開催後 誤記修正版 2022/6/29)

一般社団法人 品質工学会

〒101-0061 東京都千代田区神三崎町 2-16-9

新星ブルービル 4F

URL：http://www.rqes.or.jp/

TEL：03-6268-9355

FAX：03-6268-9350


一般社団法人
品質工学会
Robust Quality Engineering Society